

理学療法士 国家
作業療法士 試験

必修ポイント

理学療法

基礎編

医歯薬出版 編

(2007年10月制作)

- 2～4頁 「第42回PT・OT国試問題」の概要
- 5～18頁 「出題傾向と対策の要点」(第29回～第42回)
- 19～26頁 「第40回PT・OT国家試験問題」(理学療法 基礎編)
- 27～35頁 「第41回PT・OT国家試験問題」(理学療法 基礎編)
- 37～43頁 「第42回PT・OT国家試験問題」(理学療法 基礎編)
- 44頁 「国家試験合格率」(第30回～第42回)

第 42 回 PT・OT 国試問題の概要

第 42 回 PT・OT 国家試験は大幅に変更された！

「第 42 回理学療法士・作業療法士 国家試験」(以下「第 42 回 PT・OT 国試」と略す)は、平成 19 年 3 月 4 日(日)に実施されましたが、今回は今までと比較して、その出題形式が大きく変更されました。それは①「X(2)タイプ」問題の出題数の大幅な増加と、②「X(2)タイプ」問題の出題領域の拡大です。厚生労働省は「第 42 回国家試験から出題形式を変更する予定である」と全国の養成校に到達していましたが、これほどに変更「X(2)タイプ」問題が増加し領域拡大するとは、予測していませんでした。ここでいう問題形式のタイプ例を、以下の表 1 に示します。

表 1 問題形式のタイプ例

「Aタイプ」問題	「Kタイプ」問題	「X(2)タイプ」問題
第 42 回 共通問題より	第 42 回 共通問題より	第 42 回 共通問題より
問題 1 外胚葉から発生するのはどれか。 1. 骨 2. 脊髄 3. 筋 4. 心臓 5. 子宮 A. 2	問題 18 腎臓で正しいのはどれか。 ア. 糸球体は髄質にある。 イ. 近位尿細管は腎盂にある。 ウ. 尿管は皮質と連結する。 エ. 輸入糸動脈は糸球体と連結する。 オ. 遠位債尿管はヘンレ係蹄と連結する。 1. ア, イ 2. ア, オ 3. イ, ウ 4. ウ, エ 5. エ, オ A. 5 (エ, オ)	問題 8 体表から容易に筋収縮を触知できるのはどれか。2つ選べ。 1. 梨状筋 2. 外閉鎖筋 3. 小殿筋 4. 大腿筋膜張筋 5. 長内転筋 A. 4 と 5

「X(2)タイプ」問題は、「2つとも正答で正解採点」となるため、このタイプの問題が増加するということは、言い換えれば受験生にとって**難易度が上がる**ということになります。平成 15 年 3 月の「第 38 回 国家試験」から「X(2)タイプ」問題が導入されてきましたが、その時点では「理学療法士・作業療法士ともに実地問題に限って出題する」とされていました。過去の「X(2)タイプ」問題は「第 38 回、第 39 回」で実地問題に 2 問のみ出題、「第 40 回、第 41 回」で実地問題に 4 問のみ出題されました。

ところが今回の「第 42 回」では、「**X(2)タイプ**」の出題数が**大幅に増加**し、また出題領域も PT・OT 専門分野の実地問題(午前の部の問題 1~41)のみならず、PT・OT 専門分野の一般問題(午前の部の問題 41~100)、共通分野(午後の部の問題 1~100)にまで及び、「X(2)タイプ」の出題数は、PT 合計 **51 問** / 200 問、OT 合計 **45 問** / 200 問でした。その問題配分を以下の表 2 に示します。

表 2 第 42 回 PT・OT 国試の問題配分

問題番号 (配点)	「X(2)タイプ」	「Aタイプ」	「Kタイプ」	計
理学療法 { 実地問題(問題 1~40) (3点) 一般問題(問題 41~100) (1点)	13 } 計 29 16 }	26 } 計 70 44 }	1 } 計 1 0 }	100
作業療法 { 実地問題(問題 1~40) (3点) 一般問題(問題 41~100) (1点)	8 } 計 23 15 }	32 } 計 75 43 }	0 } 計 2 2 }	100
共通問題 一般問題(問題 1~100) (1点)	21	77	2	100

次に出題内容についてですが、「理学療法専門分野の実地問題」では、① 理学療法基礎分野から：「徒手筋力テスト、関節可動域テスト、代償運動、義肢・装具、歩行分析、身体運動に関するテコの計算、運動発達年齢、乳幼児姿勢反応、ADL 動作など」、② 疾患別理学療法分野から：「脳卒中片麻痺(CT 像を含む)、パーキンソン病、脊髄損傷、大腿切断、関節リウマチ、呼吸不全、心疾患(心電図を含む)、筋ジストロフィー、脳性麻痺児など」が図表、写真入りで例年と大差なく出題されました。ただ実地問題中の物理療法は1問のみでした。「理学療法専門分野の一般問題」では、「理学療法全分野」にわたって広く出題されました。特に目立って新しいと思われる出題内容はありませんでした。

「作業療法専門分野の実地問題」では、① 作業療法基礎分野から：「徒手筋力テスト、関節可動域テスト、義手、家屋改修、基礎作業技術、集団作業療法など」、② 障害別作業療法分野から：「脳卒中片麻痺、高次脳機能障害、パーキンソン病、関節リウマチ、脊髄損傷、上肢末梢神経障害、筋萎縮性側索硬化症、脳性麻痺児、統合失調症、躁うつ病、恐怖症、不安神経症、境界型人格障害、広汎性発達障害など」が図表、写真入りで例年通り出題されました。「作業療法専門分野の一般問題」では、「作業療法全分野」にわたって広く出題されていました。ただし4問だけ一般問題領域に新出問題がありました。「医療観察法」「シンナー乱用」「作業評価(BADS, POMS, TMT など)」「精神障害者地域生活移行支援アセスメント(SCT, BPRS, REHAB など)」などです。それら以外はすべて例年までの内容と変わりありませんでした。

「PTOT 共通分野(基礎医学・臨床医学)」について、「基礎医学」分野は48問、「臨床医学」分野は52問出題されており、問題数の配分は例年と同様でした。その内容について、「基礎医学」分野は「解剖学・生理学・基礎運動学」で例年通りの範囲で出題されており、「臨床医学」分野は「病理学・内科学・整形外科学・臨床神経学・精神医学・臨床心理学・リハビリテーション医学・医学概論」の範囲から、これも例年と変わらない内容で出題されていました。3問ほど新しい用語の問題があり、「治療関係における感情疎通性(カタルシス、ラポール、リエゾン、コンプレックス、モデリング)」「クリニカルパス」「ICFの用語説明」でした。

第 42 回 PT・OT 国家試験の合格率は低下した！

第 42 回 PT・OT 国試の合格者数・合格率を以下の表 3 に示します。

表 3 第 42 回 PT・OT 国試の合格者数・合格率

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士 (PT) 国家試験	7,036	6,559	93.2 %
作業療法士 (OT) 国家試験	5,131	4,400	85.8 %

厚生労働省発表による合格基準を以下の表 4 に示します。理学療法士・作業療法士ともに、一般問題を1問1点(160問で160点満点)、実地問題1問3点(40問で120点満点)の両者の総得点(280点満点)で、次の合格基準のすべてを満たした者を合格とします。

表 4 PT・OT 国試の合格基準

	総得点	実地問題
理学療法士 (PT) 国家試験	167 点以上 / 279 点	43 点以上 / 120 点
作業療法士 (OT) 国家試験	168 点以上 / 280 点	43 点以上 / 120 点

PT の合格基準総得点が 279 点になっていますが、これは PT 専門問題に採点除外問題があったからで、またその他にも専門分野・共通分野ともに複数選択肢が正解となる問題があり、採点基準が厚生労働省のホームページで公開されています(表 5)。

表5 PT・OT 国試の採点基準

問題分野	問題	問題種別	理由	採点	配点	
PT 専門	{	2	実地問題	選択肢に複数の正解あり	複数選択肢正解	3点
		42	一般問題	問題表現が不明確	採点除外	総得点-1点
OT 専門	{	99	一般問題	問題表現があいまい	3通り解答正解	1点
		11	実地問題	問題図が不明瞭	複数選択肢正解	3点
共通		9	一般問題	選択肢に3つの正解あり	3選択肢正解	1点

過去の「理学療法士・作業療法士 国家試験合格率」については、表6-1、表6-2と巻末のグラフに示します。

表6-1 理学療法士 (PT) の合格率

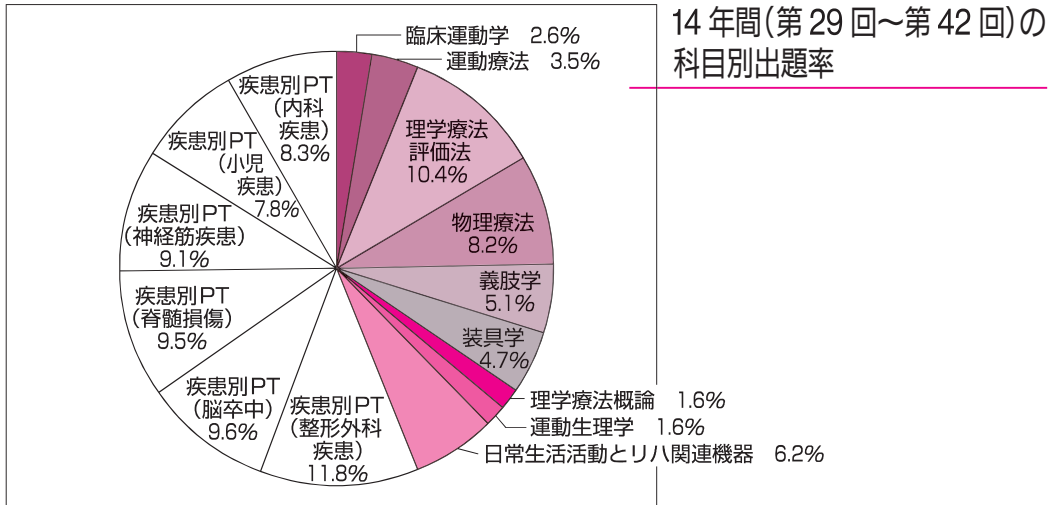
実施回	合格者/受験者(人)	合格率 (%)	合格基準 (点)
37回	3,354 / 3,503	95.7	総合 165 以上 / 275 かつ実地 40 以上 / 117
38回	3,629 / 3,686	98.5	総合 168 以上 / 280 かつ実地 43 以上 / 120
39回	4,199 / 4,289	97.9	総合 168 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120
40回	4,843 / 5,102	94.9	総合 168 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120
41回	6,002 / 6,155	97.5	総合 168 以上 / 280 かつ実地 43 以上 / 120
42回	6,559 / 7,039	93.2	総合 167 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120

表6-2 作業療法士 (OT) の合格率

実施回	合格者/受験者(人)	合格率 (%)	合格基準 (点)
37回	2,587 / 2,854	90.6	総合 167 以上 / 278 かつ実地 41 以上 / 120
38回	2,937 / 3,205	91.6	総合 165 以上 / 275 かつ実地 40 以上 / 117
39回	3,313 / 3,469	95.5	総合 168 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120
40回	3,443 / 3,897	88.4	総合 168 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120
41回	4,185 / 4,571	91.6	総合 168 以上 / 280 かつ実地 43 以上 / 120
42回	4,400 / 5,131	85.8	総合 168 以上 / 280 かつ実地 43 以上 / 120

出題傾向と対策の要点

■疾患別 PT 整形外科疾患, 脳卒中, 脊髄損傷, 神経筋疾患, 小児疾患, 内科疾患に関する「出題傾向と対策の要点」は, 姉妹編「理学療法士・作業療法士 国家試験 必須ポイント 理学療法 疾患別編」(本体 4,200 円) の「付録」に掲載しています。



理学療法評価法 (146)

① 1 年当たり平均出題数(出題率)

・10~15 問(10.4%)。年ごとに出题数が大幅に変動する。

② 一般的な出題傾向

- ・「理学療法評価法」は基礎理学療法の中で最も出題数が多い項目である。
- ・「徒手筋力検査法(MMT)」「関節可動域検査(ROMT)」合わせて6~7問は必ず出題されている。
- ・「MMT」に関しては、「筋力2」と「筋力3」のポジションの違い(重力による肢位の違い)を理解できているか?あるいは「筋力1」における触診部を理解しているか?の問題がほとんどである。
- ・10~15 問中5~6問は「実地問題」(具体的な図入り問題)なので, 評価法に関する配点は大きい。

③ 第 42 回国家試験の出題傾向の変化

・今年の理学療法評価法の出題数は平均的な出題数(11 問)であり, 「MMT 4 問」「ROMT 3 問」「整形外科テスト 2 問」「感覚テスト 1 問」「疾患とテスト法の組み合わせ問題 1 問」とまんべん

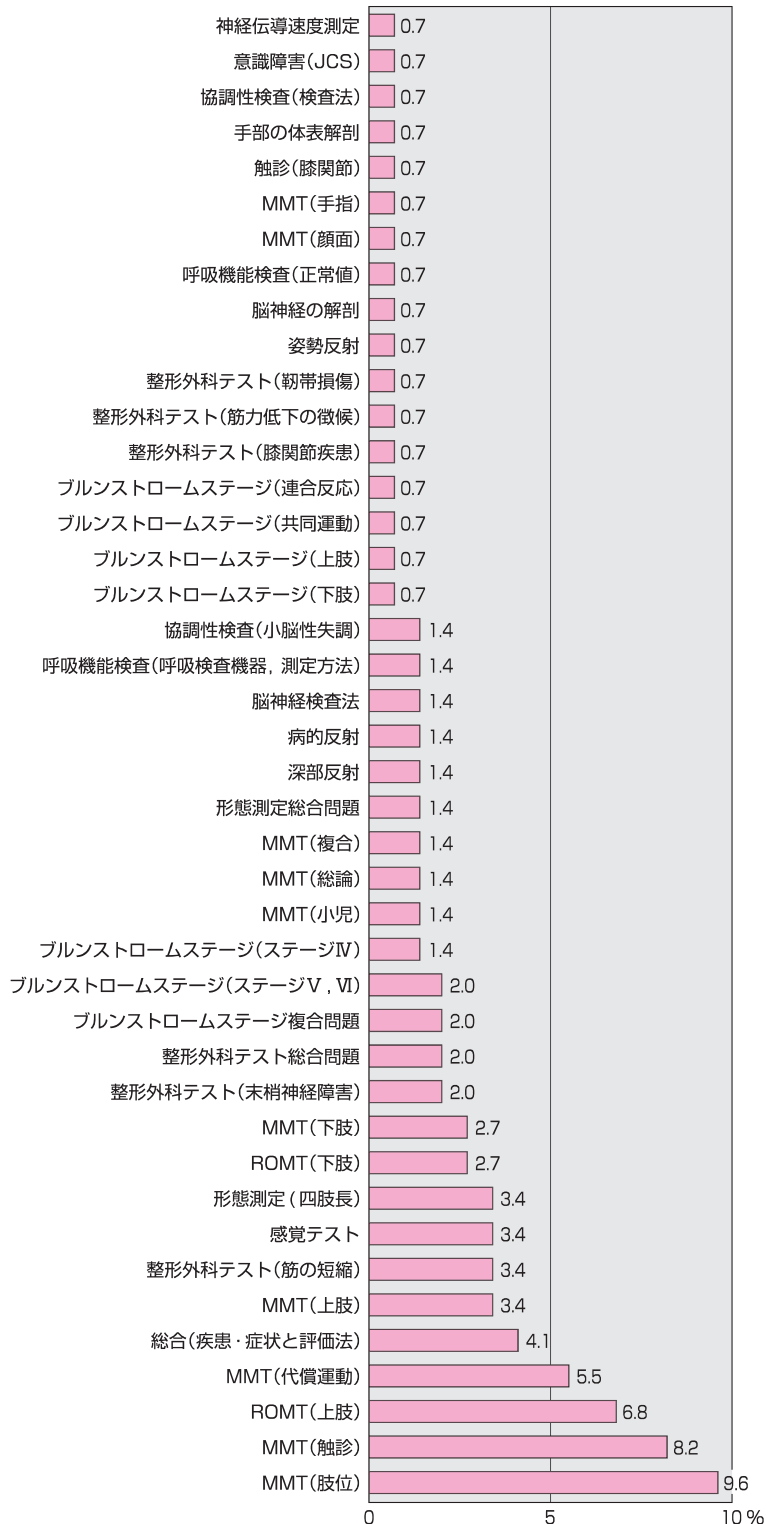
なく出題された。

- ・難易度も平易で平均的な問題であり, 基本的な学習で解答できるレベルであった。

④ 対策の要点

- ・「MMT」に関しては「筋力1の筋触診部」と「筋力2と筋力3のポジションの違い」の2大項目が必須なので, 実技練習を行って必ず習得すること。
- ・「上肢 MMT」の出題が「下肢 MMT」よりやや多いように思われるが, どちらもまんべんなく押さえるべきである。
- ・「小児 MMT」に関して「徒手筋力検査法の書籍改訂」に伴い「小児 MMT」が現在の改訂版書籍から削除されているため, 今後の出題は疑問である。
- ・「ROM 検査法」に関しては, 角度計(ゴニオメーター)の「基本軸と移動軸の当て方」についての問題がほとんどなので, これに関して必ず実技練習を行って体得しよう。これも「上肢」に関しての問題がやや多いように思われるが, とりあえず上下肢ともにどちらとも学習しておこう。

- ・「ブルストローム法」の「ステージⅣ，Ⅴの評価」が多く出題されているので、これも実際に自分で体験して習得しておこう。
- ・以上の3大項目に関しては「実地問題」で必ず出題されており、配点が大きく(予測として「MMT 2問」「ROMT 1問」「ブルストローム法 1問」で計12点分)、ここで点数を稼ぐことを考えて、しっかりと学習しておこう。



過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100% の出題率
 ほぼ 80% 程度の出題率
 ほぼ 50% 程度の出題率
 低出題率の領域

出題項目	合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	
MMT (54)	肢位	14		2	1	1	2	1	2	1	1		1	1	1	
	触診	12	1		2	2	1	1	2		1	1	1			
	代償	8	2	1				1			1	1	1	1		
	上肢	5								1		1	1	2		
	下肢	4					1	1				1				
	体幹	3		1					1	1						
	小児	2						1							1	
	総論	2				1							1			
	複合	2														2
	顔面	1		1												
	手指	1										1				
	ROMT (30)	総合	16	2	1	1	2	2			1	1	2	1	1	1
上肢		10	1	1				1	1	1	2		1	1	1	
下肢		4					1	1	1			1				
整形外科テスト (14)	筋短縮	5	1	1						1	1				1	
	末梢神経障害	3					1			1	1					
	総合	3	1		1	1										
	膝関節疾患のテスト	1		1												
	筋力低下の徴候	1		1												
	靭帯損傷	1													1	
ブルンストロームステージ (12)	複合	3			1					1		1				
	ステージ V, VI	3		1					1	1						
	ステージ IV	2					1						1			
	下肢	1						1								
	上肢	1			1											
	共同運動	1		1												
	連合反応	1						1								
形態測定 (7)	四肢長	5		1			1	1						1	1	
	総合	2		1						1						
総合 (疾患・症状と評価法)		6	1			2	1	1							1	
反射反応 (5)	深部反射	2			1									1		
	病的反射	2			1							1				
	姿勢反射	1								1						
(表在) 感覚テスト		5	1		1					1	1	1				
脳神経 (3)	解剖	1													1	
	検査法	2							1					1		
呼吸機能検査 (3)	正常値	1							1							
	呼吸検査機器, 測定方法	2								1				1		
協調性検査 (3)	検査法	1						1								
	小脳性失調	2		1			1									
触診 (2)	膝関節	1						1								
	手部の体表解剖	1												1		
意識障害 (JCS)		1										1				
神経伝導速度測定		1						1								
総合計		146	11	15	10	9	12	14	10	12	9	12	7	11	7	

物理療法 (115)

過去 14 年間の出題頻度

■ ほぼ 100 % の出題率 ■ ほぼ 80 % 程度の出題率 ■ ほぼ 50 % 程度の出題率 □ 低出題率の領域

出題項目		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
温熱療法(38)	超音波	16		1	1		2	1	2	2	1		1	2	1	2
	極超短波	12	1	1	1					1	1	2	1	2	1	1
	総合	7			1				2	1		1		2		
	パラフィン	3		1				1						1		
	ホットパック	1										1				
電気療法(29)	低周波(16)	総合	8				1		1		3	1	1			1
		経皮的電気刺激	8		1	2		2	2			1				
	EMG バイオフィードバック	7				1	1	1				1		1	1	1
	総合	4				3				1						
	強さ時間曲線(クロナキシー)	2													1	1
物理療法総合(16)	適応・禁忌	10	1		1	2	1	1		2			1		1	
	総合	6				1		1	1					1		2
水治療法		12	1	1		1	1	1	1		2	1	1	2		
牽引療法(10)	腰椎牽引	6		1							1	1	1	1	1	
	頸椎牽引	2										1	1			
	総合	2			1				1							
寒冷療法		7				1			1	1			1		1	1
マッサージ		1													1	
紫外線		1					1									
総合計		115	4	6	7	9	9	8	9	8	9	9	8	12	8	9

① 1年当たり平均出題数(出題率)

・8~9問(8.5%)。出題数の変動はあまりない。

② 全般的な出題傾向

- ・「温熱療法」「電気療法」が2大項目である。
- ・「温熱療法」は「超音波」「極超短波」からの出題がほとんどで、その内容は「使用方法、禁忌、適応」である。
- ・「電気療法」では「低周波療法の運動点、使用方法」「EMG バイオフィードバック」等である。
- ・「各種物理療法と禁忌適応の組み合わせ」や「水治療法」なども多く出題されている。

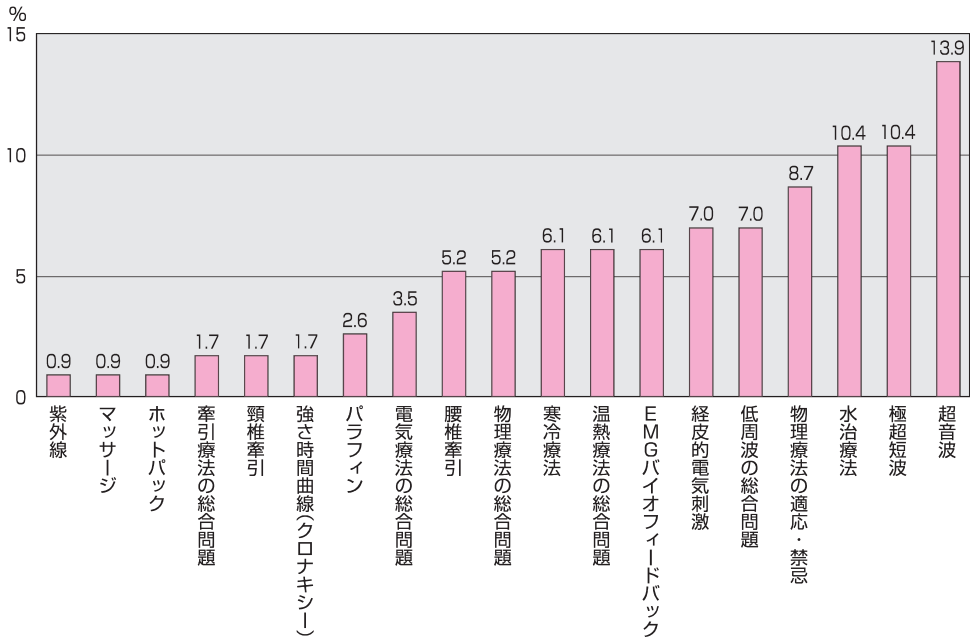
③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

・第42回は物理療法の問題が極端に少なかった。また4問とも一般問題であり、実地問題に物理療法問題は出題されていなかった。

- ・毎年出題される「温熱療法」の「超音波」は出題されず「極超短波」のみの出題で、これも毎年出題される「電気療法」は出題がなかった。
- ・難易度はそれほど高くなく、4問とも基本的な知識があれば分かる問題であった。

④ 対策の要点

- ・「温熱療法では超音波療法」「電気療法では低周波療法」「物理療法全体での適応と禁忌」を中心に学習を進めよう。
- ・毎年、「実地問題」として2問程度は出題されている。特に「低周波療法の運動点」「超音波療法の使用方法」「各種物理療法の禁忌適応」などは、図入り問題として出題されやすい。ここに焦点を絞って実習して体得しよう。



臨床運動学 (36)

過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100% の出題率
 ほぼ 80% 程度の出題率
 ほぼ 50% 程度の出題率
 低出題率の領域

出題項目		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
仕事と力学的エネルギー(10)	てこ	6	1	1				1		1	1	1				
	パウエルの法則	2					1						1			
	ベクトル	1	1													
	その他	1							1							
正常歩行(10)	筋活動	5				1			1	1		1	1			
	角度変化	3												1	2	
	周期	2									1		1			
正常姿勢, 異常姿勢		8							2	1	1	1	1	3		
動作分析		3			1			1								1
異常歩行		3								1		1		1		
運動神経伝導速度		1		1												
筋の長さ-張力曲線		1													1	
総 合 計		36	2	2	1	1	1	2	4	2	4	3	4	6	3	1

① 1年当たり平均出題数(出題率)

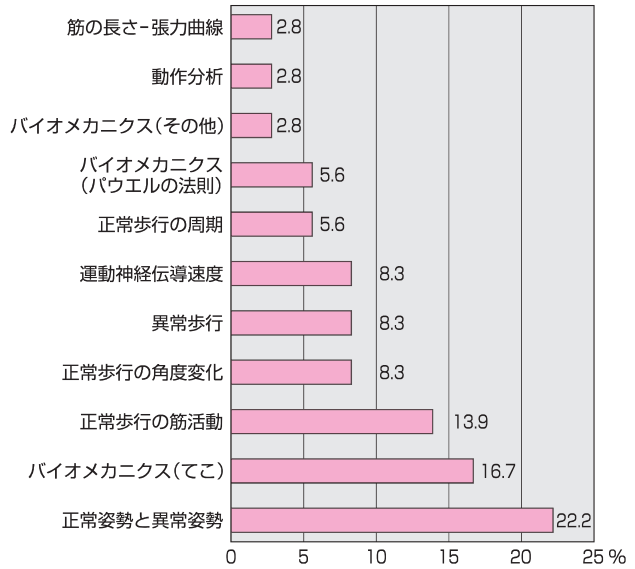
・2~3問(2.6%)

② 全般的な出題傾向

- ・「力学」「正常歩行」「正常姿勢」「動作分析」のどれかが必ず毎年出題されている(第40~42回は「姿勢」や「歩行」に関する問題が出題されなかったが、毎年必ず出題されると思って学習しよう)。
- ・「臨床運動学」に関する問題は、図を使用した「実地問題」として出題される。
- ・「力学に関する計算問題」が必ず出題されている。

③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・今回は「てこの計算問題, 筋の収縮ベクトルの問題」の実地問題として2問出題されており, 2問とも難問であった。
 - ・近6年は1~2問の出題であり10年前と比較すると臨床運動学の出題は減少している。
 - ・正常歩行の問題は3年出題されていない。
- ④ 対策の要点
- ・正常の筋活動については, 隔年で出題されているので必ず押さえよう。
 - ・この表にあげている小項目に関して, 毎年ま



べんなく出題されているので, 必ず押さえよう。

- ・「臨床運動学」に関しては出題問題数は少ないが, 「実地問題」として出題されている。1問当たり3点と点数配分は大きいので重要である。
- ・毎年2問(計6点分)は出題されるつもりで学習しよう。

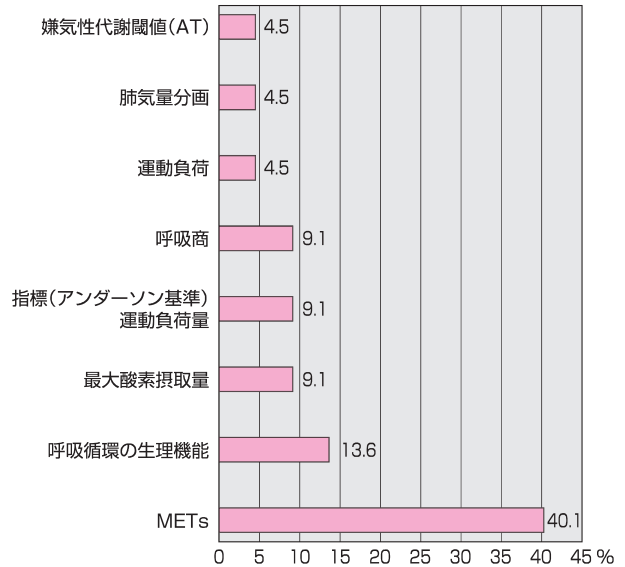
運動生理学 (22)

過去14年間の出題頻度

■ ほぼ100%の出題率 ■ ほぼ80%程度の出題率 ■ ほぼ50%程度の出題率 □ 低出題率の領域

出題項目		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
エネルギー消費(11)	METs	9			1	1	1	1		1	1		1	1	1	
	最大酸素摂取量	2						1			1					
	運動負荷	1	1													
運動負荷の影響(5)	呼吸循環の生理機能	3											1		1	1
	指標(アンダーソン基準), 運動負荷量	2											1		1	
呼吸(5)	呼吸商	2		1					1							
	肺気量分画	1									1					
	嫌気性代謝閾値(AT)	1							1							
	ダブルプロダクト(二重積)	1											1			
総合計		22	1	1	1	1	1	2	2	1	3	0	4	1	3	1

- ① 1年当たり平均出題数(出題率)
 - ・1~2問(1.6%)。ここ4年間は1問の出題である。
- ② 全般的な出題傾向
 - ・運動負荷に関するエネルギー問題は「METs」が必須である。
 - ・「METs」以外の問題には傾向がない。
 - ・呼吸に関する問題も、5~6年に1問といったところである。
- ③ 第42回国家試験の出題傾向の変化
 - ・出題は年1問で問題数は少ないが、実地問題として出題されるので3点配点である。
 - ・METs以外は計算問題が出題されている。
- ④ 対策の要点
 - ・基本的には「METs」の問題をおさえおくことが重要であり、余裕があれば「呼吸」や「運動負荷基準」等を学習しておこう。
 - ・「METs」または計算問題が主なので、計算問題の計算方法も学習してしっかり覚えよう。



運動療法 (49)

過去14年間の出題頻度

ほぼ100%の出題率
 ほぼ80%程度の出題率
 ほぼ50%程度の出題率
 低出題率の領域

出題項目	合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
筋力増強訓練	12	1			2	1	1				2	1	3	1	
腰痛体操, ウィリアムス体操	9	1			1	2		1	1	1	1		1		
伸張訓練(ストレッチ)	8		1		1	1		1					1	2	1
PNF	7			1		1	1	1	1		1		1		
関節可動域訓練(CPMを含む)	6		1		1	1				1			1		1
運動療法(総合)	2					2									
特殊運動療法(神経生理学的アプローチなど)	2												1		1
協調性訓練	1	1													
全身調整運動	1							1							
斜面台起立訓練	1														1
総合計	49	3	2	1	7	6	2	4	3	1	4	2	7	6	1

① 1年当たり平均出題数(出題率)

- ・3~4問(3.5%)

② 全般的な出題傾向

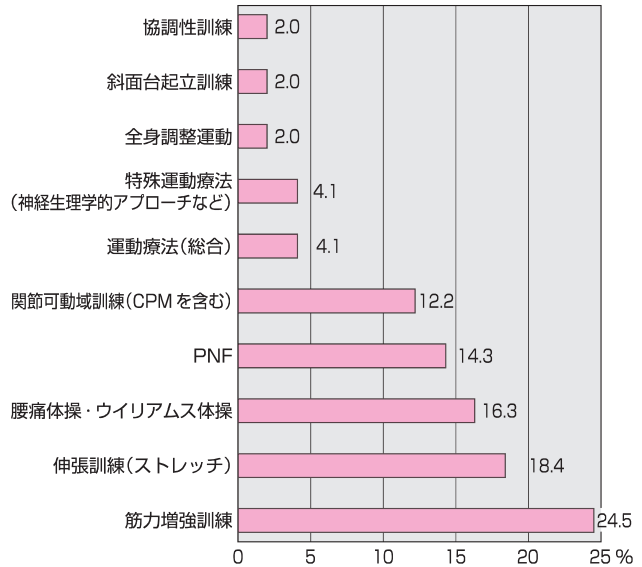
- ・「筋力増強運動」に関する基本的概念の質問が多い。
- ・「腰痛体操(ウイリアムス体操)」と「PNF」は「実地問題」としての定番問題である。
- ・「関節可動域運動やストレッチ」など、関節に関する問題も多い。

③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・今回も出題数は例年並みの3問であった。
- ・「筋力増強訓練」と「ストレッチ」の問題は例年と同様で妥当な問題である。難易度も例年並みである。
- ・本年は「実地問題」で協調性回復訓練が出題されたが、難易度は平易であり基礎知識で十分対応できる問題であった。

④ 対策の要点

- ・「筋力」「関節可動域」に関する2項目は、「運動療法」の2大項目である。
- ・「筋力」を取り上げた問題に関しては、最近の老人医療や老人介護の現場においても「筋力増強・パワーリハ」の考え方がクローズアップされていることから、出題され続けると考えたほうがよい。
- ・「関節可動域」に関する問題も、「寝たきり防止」や「早期リハ、回復期リハ」の観点から、今後



も重要項目といえる。

- ・問題の配置は1~2問は「実地問題」として必ず出題されている。特に「ウイリアムス体操」「PNF」は必ず「実地問題」で出題されるので、実技をしっかりと習得しておこう。
- ・「PNF」に関しては「上肢パターン」「下肢パターン」「上部体幹パターン」「下部体幹パターン」等の「パターン問題」がすべて過去にはまんべんなく出題されているので、「パターン」に関しては繰り返し実習して、自分の身体で覚えておこう。

日常生活活動とリハビリテーション関連機器 (87)

① 1年当たり平均出題数(出題率)

- ・5~9問(6.5%)。平均6問程度であるが、年により問題数に変動がある。

② 全般的な出題傾向

- ・「ADL評価」の問題は必須であり、特に「Barthel index」「FIM」は絶対である。
- ・また「ADL」単独問題はあまりなく、ほとんどが種々の疾患別のADL動作指導に関する問題である。しかも(具体的図入り)「実地問題」なので配点が高い。

- ・「ADL」に関する補装具では、「車椅子」に関する問題が多い(杖や歩行器に関しての出題数は少ない)。

③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・疾患別ADL指導に関する問題、車椅子に関する問題はほとんど(具体的図入り)実地問題なので配点が高い。
- ・年ごとの問題数の変動はあるが、毎年3問は実地問題なので配点が高い。

過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100 % の出題率
 ほぼ 80 % 程度の出題率
 ほぼ 50 % 程度の出題率
 低出題率の領域

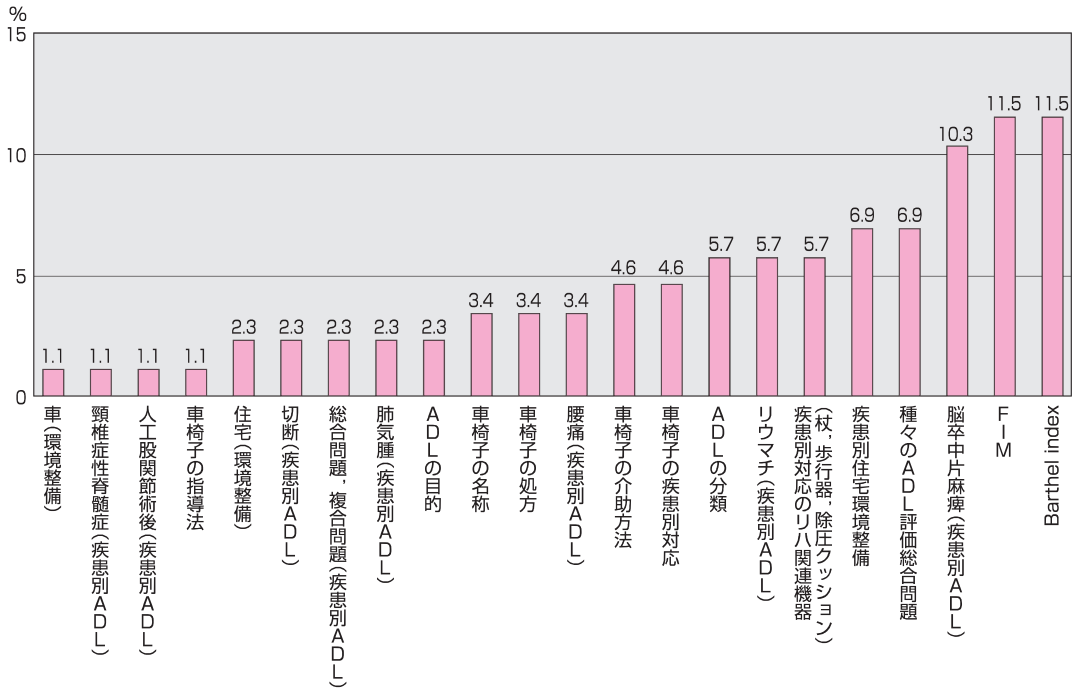
出題項目		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
ADL 評価(26)	Barthel index	10			1		2		1	1	1	1	1			1
	FIM	10	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1			
	種々の ADL 評価, 総合問題	6		1		1	1				1	1				1
疾患別 ADL 指導(25)	脳卒中片麻痺	9		1		1		2	1	1	2	1				
	リウマチ	5				2			1	1			1			
	腰痛	3					1						1	1		
	肺気腫	2			1							1				
	総合問題, 複合問題	2												1		1
	切断	2		1		1										
	人工股関節術後	1			1											
	頸椎症性脊髄症	1			1											
車椅子(15)	疾患別対応	4							1	1			1			1
	介助方法	4				1			1					1	1	
	処方	3						1				1				1
	名称	3				1							1	1		
	指導法	1								1						
ADL 総論(7)	分類	5	1	1	1			1			1					
	目的	2													1	1
疾患別住宅環境整備		6	1	1					1	1			1			1
疾患別対応のリハ関連機器(杖, 歩行器, 除圧クッション)		5					1		1	1			1			1
環境整備(3)	住宅	2				1		1								
	車	1						1								
総 合 計		87	3	6	6	9	6	7	8	9	5	5	8	5	4	6

④ 対策の要点

- 「疾患別 ADL 指導」実技を何度も繰り返して練習し, 体感イメージを認識しておくこと。「疾患別 ADL 指導」の代表的な疾患は「脳卒中片麻痺, リウマチ, 腰痛症」などであり, またその内容は「階段昇降, 坂道昇降, 障害物またぎ,

車椅子トランスファー, 立ち上がり, 杖歩行」などである。

- また「ADL 評価」では「Barthel index」と「FIM」についてしっかりと学習しておくこと。各「ADL 評価」の目的, 評価総点数, 評価分野などをしっかりと把握しておこう。



義肢学 (72)

① 1年当たり平均出題数(出題率)

- ・5~6問(5.2%)

② 全般的な出題傾向

- ・義手の出題はほとんどなく、出題問題中半分以上が「大腿義足」からの出題である。
- ・「大腿義足」「下腿義足」「義足の部品」が3大項目である。
- ・「大腿義足」も「下腿義足」もそのほとんどが「異常歩行」や「ソケット」に関する問題であり、しかも「実地問題」(具体的図入り)である。

③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・本年度の切断と義肢の問題は4問と少なかった。
- ・義肢も3問全て「大腿義足に関する異常歩行と理学療法」であり、切断に関しては「原因」であった。
- ・難易度は平易であり、基本的内容であった。

- ・大腿義足の異常歩行2問が実地問題であったため計6点、残り2問が一般問題で計2点、合計8点配分で、問題が少ない割に高配点である。

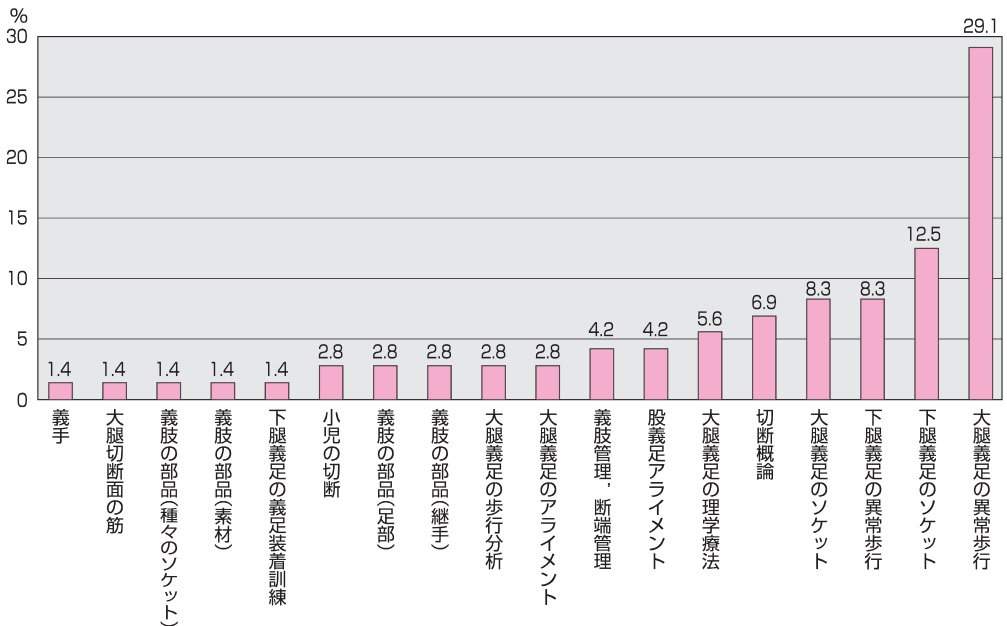
④ 対策の要点

- ・「大腿義足」「下腿義足」の各々の「異常歩行」と「ソケット」をしっかりと学習しよう。
- ・5問中2問は「実地問題」として出題されており、その内容のほとんどが「大腿義足歩行と下腿義足歩行の異常歩行」の図示である。「その原因」についての質問なので、実際に自分で異常歩行の真似を行って、異常歩行についてイメージできるところまで学習しよう。
- ・「大腿義足ソケット」では「四辺形ソケットと座骨収納型ソケット」,「下腿義足ソケット」では「PTB, PTES, KMB, TSBの各ソケット」を理解しよう。

過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100 % の出題率
 ほぼ 80 % 程度の出題率
 ほぼ 50 % 程度の出題率
 低出題率の領域

出題項目	合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	
大腿義足(35)	異常歩行	21	2		1	2	2	2	3	1	1	1	1	1	2	2
	ソケット	6			1			1		1		1	1	1		
	理学療法	4	1				2			1						
	アライメント	2										1	1			
	歩行分析	2							1	1						
下腿義足(16)	ソケット	9		1		1	1	1		1	2	1		1		
	異常歩行	6			1		1	1		1		1				1
	義足装着訓練	1		1												
義肢部品(6)	継手	2							1					1		
	足部	2									1				1	
	素材	1		1												
	種々のソケット	1								1						
切断概論	5	1	1	1									2			
股義足アライメント	3						1			1	1					
義肢管理, 断端管理	3							1		1				1		
小児の切断	2										1	1				
大腿切断面の筋	1		1													
義手	1									1						
総合計	72	4	5	4	3	6	6	6	7	6	8	6	5	3	3	



装具学 (66)

過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100 % の出題率
 ほぼ 80 % 程度の出題率
 ほぼ 50 % 程度の出題率
 低出題率の領域

出題項目		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	
下肢装具(41)	靴型装具	11	1	1		1	1	1		1	1		1	1	1	1	
	下肢装具とその適応疾患	10				1	1		2		2	1		2	1		
	下肢装具の継手	8					1	1		1		1	1	1	1	1	
	チェックアウト(5)	長下肢装具	3					1						1	1		
		短下肢装具	2				1										1
	プラスチック短下肢装具	4		1	1						1					1	
	両側支柱付短下肢装具	1	1														
	膝装具	1		1													
短下肢装具の特徴	1										1						
上肢装具(12)	装具と適応疾患(11)	スプリント	10				1	2		1	1	1	1	1	1	1	
		機能的把持装具	1						1								
	チェックアウト	1				1											
体幹装具(6)	装具と適応疾患	4	1					1	1							1	
	体幹装具の特徴	2					1				1						
各種装具とその適応疾患(四肢, 体幹)		6		2	1								1			2	
頸椎装具		1			1												
総 合 計		66	3	5	3	5	7	4	4	4	6	4	4	6	4	7	

① 1年当たり平均出題数(出題率)

- ・4~5問(4.8%)

② 一般的な出題傾向

- ・「下肢装具」が全体の約6割, 「上肢装具」が全体の約2割を占めている。
- ・「下肢装具」は「各種下肢装具の適応」「靴型装具」「各種継手」についての問題が多く, 「上肢装具」ではそのほとんどが「スプリント」である。
- ・「体幹装具」や「頸椎装具」の出題数は少ない。

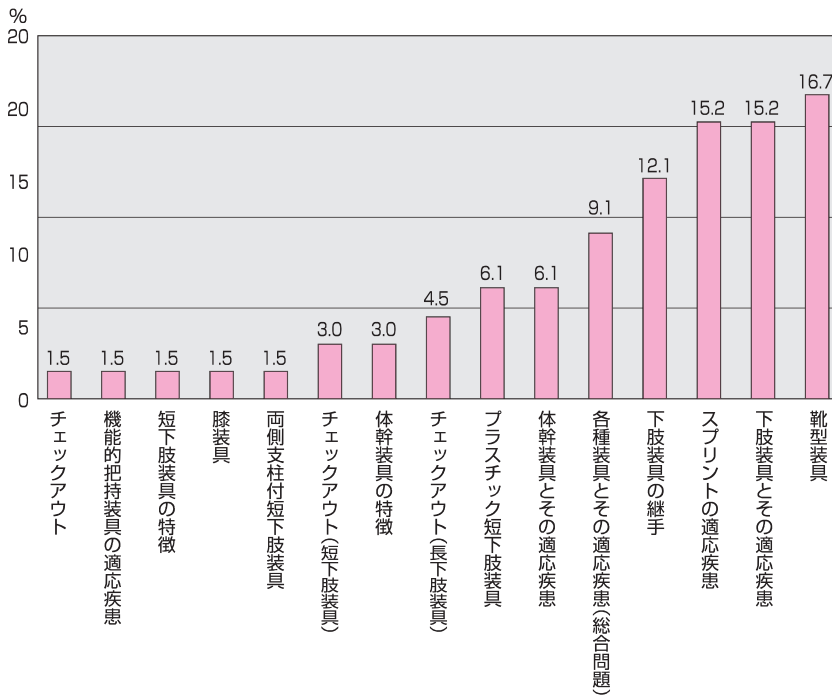
③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・本年度の装具学は3問と少なかった。
- ・「短下肢装具」「靴型装具」「体幹装具」で, 内容は非常に基本的な平易な問題であった。
- ・「体幹装具」のみ実地問題で3点配分, あとの2問は一般問題で1点ずつ, 装具学は全部で5点

配分であり, 配点分布も少なかった。

④ 対策の要点

- ・第40, 41回は過去の傾向と全く異なっており, 今後の出題傾向の予測は困難である。過去の傾向を基本ととらえるならば, やはり「下肢装具」を中心に学習を進めることを勧める。しかし, 時間に余裕があるならば, 「体幹装具」や「頸椎装具」まで学習を進めよう。
- ・まず過去問題の統計から「各種下肢装具の適応疾患」「靴型装具」「各種継手」「スプリント」の4大項目をしっかりと学習しよう。
- ・「実地問題」として毎年1~2問は出題されており, 内容は上述4大項目の図入り問題である。実際に本物の装具を装着して, それらの装具のイメージ化をはかり, 適応疾患と結びつける学習をしよう。



理学療法概論 (22)

過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100% の出題率
 ほぼ 80% 程度の出題率
 ほぼ 50% 程度の出題率
 低出題率の領域

出題項目	合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
理学療法士及び作業療法士法	7	1	1	1				1		1	1	1			
身体障害者福祉法	3						1					1			1
介護保険制度	3				1	1	1								
老人保健法	2												1		1
リスク管理	2			1	1										
国際生活機能分類 (ICF)	1	1													
インフォームド・コンセント	1				1										
医療福祉に関する制度・総合	1					1									
社会福祉施設	1								1						
業務独占と名称独占	1													1	
総 合 計	22	2	1	2	3	2	2	1	1	1	1	2	1	1	2

① 1年当たり平均出題数(出題率)

- ・1~2問(1.5%)

② 全般的な出題傾向

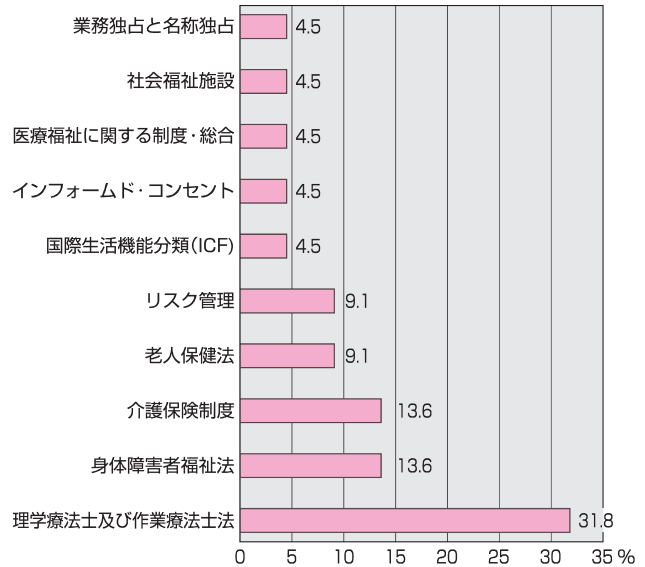
- ・理学療法士の国家試験である以上、まずは「理学療法士法作業療法士法」「身体障害者福祉法」は絶対である。また近年の国家政策である介護保険の導入から見ても「介護保険制度」の出題は当然である。
- ・国家試験に出題される「理学療法概論」の項目は「法や制度」関連、「医療従事者としての倫理」関連の問題である。

③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・ここ5年間の統計では年平均2問の出題である。
- ・「法や制度」関連から1問、「医療従事者としての倫理、リスク管理」関連から1問の出題と考えられる。

④ 対策の要点

- ・「法や制度」に関して、「理学療法士法作業療法士法」では「身分制度、罰則規定、国家受験資格、免許制度など」、「身体障害者福祉法」では「身体障害者の等級、福祉用具など」、「老人保健



法や介護保険制度」では「老人に関する健康福祉政策、介護度、介護認定など」を理解しておこう。

- ・「医療従事者としての倫理、リスク管理」に関しては、「基本的な医の倫理、医療従事者としての常識、転倒予防など」について学習しておこう。

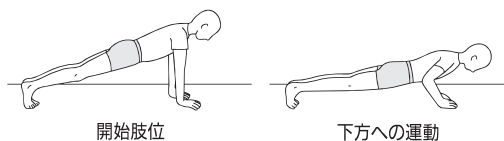
第40回 PT・OT 国家試験問題 (理学療法 基礎編)

実=実地問題 (3点), 無印=一般問題 (1点)

本書「基礎編」には35問を掲載。残り65問は姉妹編「疾患別編」(本体4,200円)の「付録」に掲載

1 第40回 理学療法1 実

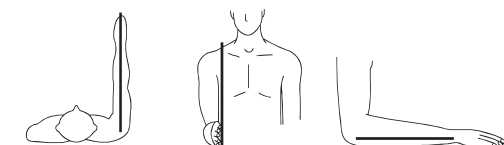
腕立てふせの開始肢位と下方への運動の図である。下方運動時の運動学的分析で誤っているのはどれか。



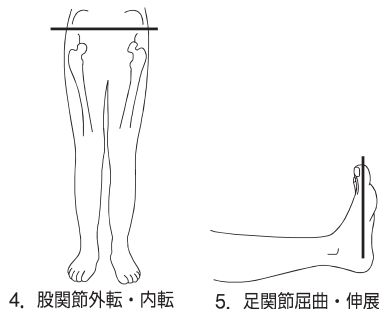
1. 頸部伸筋群の活動は等尺性収縮である。
2. 肩甲骨は内転運動を行う。
3. 肩関節は伸展運動を行う。
4. 肘関節で主に活動している筋は屈筋群である。
5. 股関節で主に活動している筋は屈筋群である。

2 第40回 理学療法2 実

関節可動域測定(日本整形外科学会, 日本リハビリテーション医学会基準による)の基本軸で正しいのはどれか。



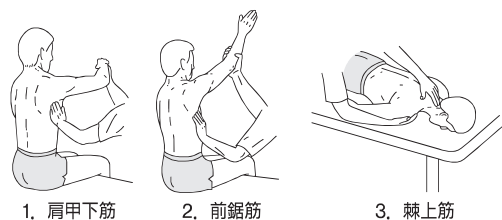
1. 肩関節水平屈曲・水平伸展
2. 前腕回内・回外
3. 手関節屈曲・伸展



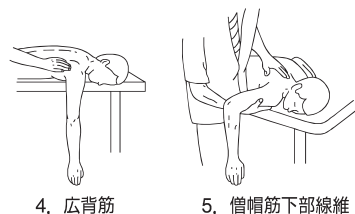
4. 股関節外転・内転
5. 足関節屈曲・伸展

3 第40回 理学療法3 実

筋の触診部位で正しいのはどれか。



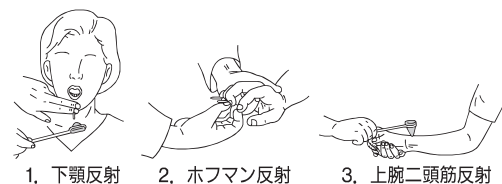
1. 肩甲下筋
2. 前鋸筋
3. 棘上筋



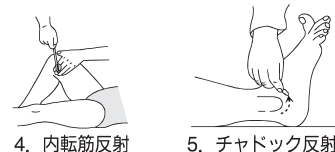
4. 広背筋
5. 僧帽筋下部線維

4 第40回 理学療法4 実

図の反射検査の名称で誤っているのはどれか。



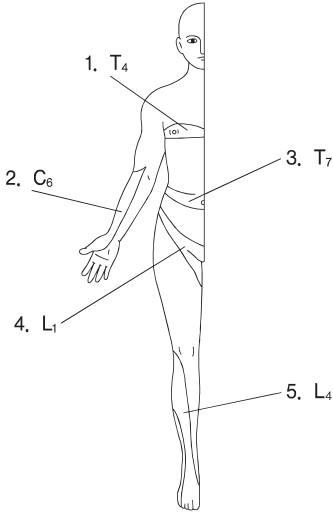
1. 下顎反射
2. ホフマン反射
3. 上腕二頭筋反射



4. 内転筋反射
5. チャドック反射

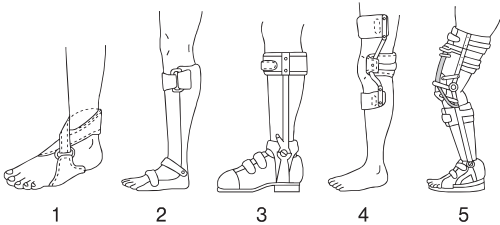
5 第40回 理学療法 5 **実**

図に示したデルマトームで誤っているのはどれか。2つ選べ。



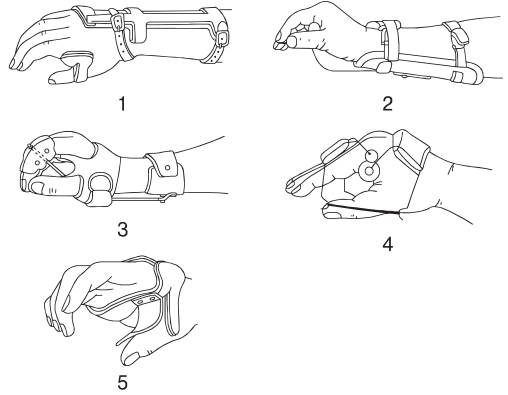
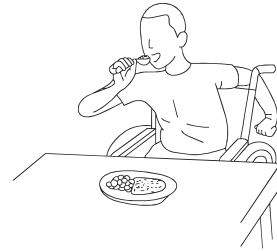
6 第40回 理学療法 26 **実**

9歳の男児。デュシェンヌ型筋ジストロフィー。介助なしに歩行可能で、椅子からの立ち上がりも可能であるが、階段昇降はできない。この時期に適切な装具はどれか。



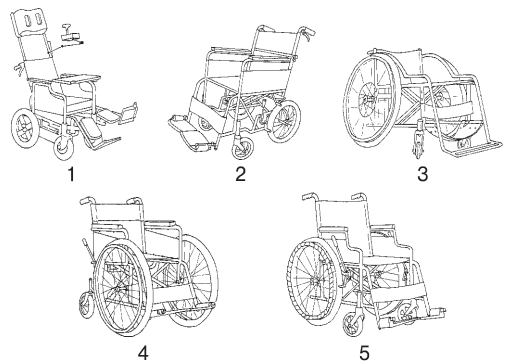
7 第40回 理学療法 33 **実**

25歳の男性。外傷性頸髄損傷。現在は図のような動作で食事を行っている。この患者に適応となる上肢装具はどれか。



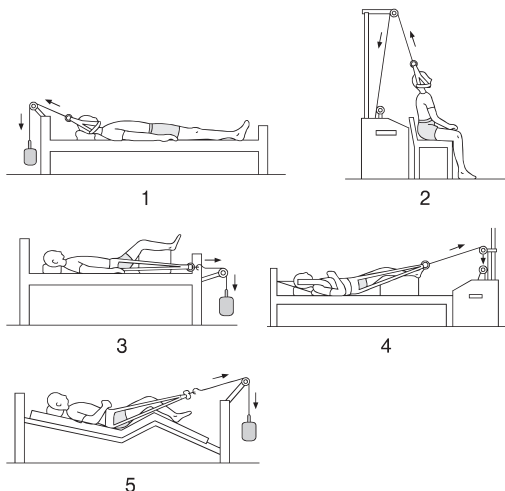
8 第40回 理学療法 35 **実**

50歳の女性。外傷性頸髄損傷。筋力は左右とも三角筋5，上腕二頭筋5，上腕三頭筋4，長橈側手根伸筋4，橈側手根屈筋1，手指伸筋4，手指屈筋0，体幹筋0，下肢筋0であった。この患者の日常生活に用いる車椅子で適切なのはどれか。



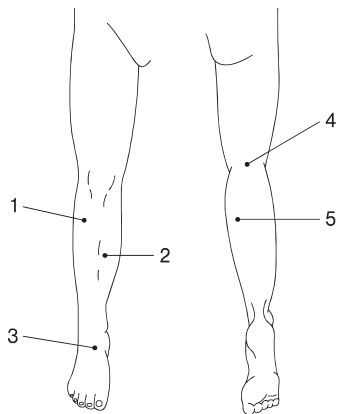
9 第40回 理学療法 36 実

腰椎や頸椎の椎間板ヘルニアの牽引療法で適切でないのはどれか。2つ選べ。



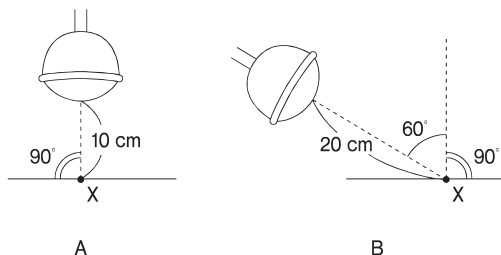
10 第40回 理学療法 37 実

50歳の男性。生来健康であったが、大量飲酒で泥酔した翌朝から右下垂足を呈するようになった。この神経麻痺に対して低周波治療を行う際の運動点はどれか。



11 第40回 理学療法 38 実

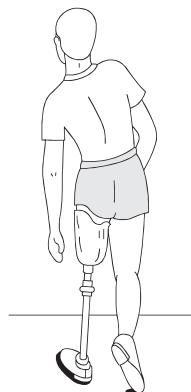
図BのX点に照射される極超短波強度は図Aの何%か。



- A
1. 62.5% 2. 50% 3. 37.5%
4. 25% 5. 12.5%

12 第40回 理学療法 39 実

大腿切断者の義足歩行訓練において、後方からの観察で図のような異常歩行を認めた。対処法として誤っているのはどれか。2つ選べ。



1. 外側壁を削る。
2. 義足の長さを調節する。
3. 初期屈曲角を調節する。
4. 中殿筋の筋力強化を行う。
5. 股関節外転拘縮を改善する。

13 第40回 理学療法 40 **実**

図に示す大腿義足ソケットの特徴でないのはどれか。



1. 内外径が前後径より短い。
2. 坐骨結節で体重を支持する。
3. 断端が内転位に保持されやすい。
4. 会陰部の疼痛が少ない。
5. 側方への安定性がよい。

14 第40回 理学療法 44

ダニエルスらの徒手筋力テストにおいて筋力1 (Trace)の筋と触診部位との組合せで正しいのはどれか。

1. 大腰筋——縫工筋の外側
2. 中殿筋——大転子の下方
3. 大腿二頭筋——膝関節後面の内側
4. 前脛骨筋——足関節前面の内側
5. 後脛骨筋——外果と踵骨の間

15 第40回 理学療法 48

FIM について誤っているのはどれか。

1. 社会的認知の項目がある。
2. 合計の最低点は18点である。
3. 完全自立レベルは7である。
4. 補装具使用で自立するときは修正自立となる。
5. 監視レベルは4である。

16 第40回 理学療法 49

誤っているのはどれか。

1. 高血圧は160/100 mmHg以上を指す。
2. 平均血圧は拡張期血圧と脈圧/3の和である。
3. 食後の血圧は通常より低めである。
4. 診察時の血圧は家庭での血圧より高めである。
5. 覚醒中の血圧は睡眠中の血圧より高めである。

17 第40回 理学療法 50

腱反射について誤っているのはどれか。

1. 腱器官の反応を検査している。
2. リラックスさせ、検査する筋の力を抜かせる。
3. 反射が出にくい場合、被験者に歯をかみしめさせる。
4. クロウズスがあれば亢進と判定してよい。
5. 筋萎縮がある場合、収縮が確認できれば正常と判定する。

18 第40回 理学療法 51

誤っている組合せはどれか。

1. トーマステスト——腸腰筋短縮
2. ファーレンテスト——正中神経圧迫
3. ヤーガソテスト——肩関節拘縮
4. スパーリングテスト——神経根圧迫
5. アドソテスト——血管圧迫

19 第40回 理学療法 52

徒手筋力テストと測定時の体位との組合せで誤っているのはどれか。

1. 大胸筋：筋力3——背臥位
2. 上腕二頭筋：筋力2——座位
3. 外腹斜筋：筋力2——座位
4. 中殿筋：筋力3——側臥位
5. 縫工筋：筋力3——座位

20 第40回 理学療法 53

活動とエネルギー消費(METs)との組合せで誤っているのはどれか。

1. 机上の仕事——1.5~2.0
2. 自転車(8 km/時)——2.5~3.0
3. シャワー——4.5~5.5
4. 速歩(6 km/時)——5.0~6.0
5. ジョギング(8 km/時)——7.0~8.0

21 第40回 理学療法 54

ブルンストローム法ステージとその説明との組合せで誤っているのはどれか。

1. 手肢ステージⅢ——全指の伸展が不十分ながら可能
2. 上肢ステージⅢ——伸展共同運動が可能
3. 下肢ステージⅣ——膝屈曲位で足関節背屈が可能
4. 下肢ステージⅤ——立位での膝関節屈曲の分離運動が可能
5. 下肢ステージⅥ——立位での股関節外転が可能

22 第40回 理学療法 57

麻痺と下肢装具との組合せで正しいのはどれか。

1. 瘻直型片麻痺——骨盤帯付長下肢装具
2. 強剛型両麻痺——交互歩行装具
3. 大腿神経麻痺——PTB式免荷装具
4. 脛骨神経麻痺——後方制動足継手付短下肢装具
5. 腓骨神経麻痺——靴べら型短下肢装具

23 第40回 理学療法 58

SACH 足部の下腿義足歩行中、踵接地後の膝屈曲動作が遅れる原因で誤っているのはどれか。

1. ソケットの初期屈曲が不足している。
2. ソケットが踵に対し前方にある。
3. SACH 足部が底屈位にセットされている。
4. 断端前面末梢部に疼痛がある。
5. 大腿四頭筋の筋力が低下している。

24 第40回 理学療法 63

基本的 ADL に含まれないのはどれか。

1. 洗面
2. 更衣
3. 移乗
4. 入浴
5. 家事

25 第40回 理学療法 64

Barthel index で、自立に対する点数の比重が高い項目はどれか。

- ア. 食事
イ. 車椅子とベッド間の移乗
ウ. 平地歩行
エ. 階段昇降
オ. 排便コントロール
1. ア, イ
 2. ア, オ
 3. イ, ウ
 4. ウ, エ
 5. エ, オ

26 第40回 理学療法 74

上肢・手指ブルンストローム法ステージⅣの運動で誤っているのはどれか。

1. 腰の後ろに手をもっていく。
2. 肘伸展位で肩を90°外転する。
3. 肘90°屈曲位で前腕を回内・回外する。
4. 母指で横つまみをして離す。
5. 全指で鉤形握りをする。

27 第40回 理学療法 91

神経筋電気刺激(低周波治療)の留意点で正しいのはどれか。

1. 電極下の皮膚抵抗を高くする。
2. 単極性刺激では運動点に陽極を置く。
3. 患者の身体にアース(接地)電極を付ける。
4. 電極対は筋線維の走行に垂直に配置する。
5. 定電流では電極の接触不良で火傷の危険がある。

28 第40回 理学療法 92

物理療法の適応で誤っているのはどれか。

1. 低出力レーザー——腰痛症
2. パラフィン浴——深部静脈血栓症
3. アイスパック——捻挫
4. 間欠牽引——変形性頸椎症
5. ホットパック——変形性肘関節症

29 第40回 理学療法 94

超音波療法について正しいのはどれか。

1. 超音波の強度は5~10 W/cm²を用いる。
2. 3 MHz は1 MHz に比べより深部まで到達する。
3. 人工関節への照射は禁忌である。
4. 褥瘡の治療促進効果がある。
5. 治療範囲は有効照射面積の4倍とする。

30 第40回 理学療法 95

物理療法と熱伝達様式との組合せで誤っているのはどれか。

1. 極超短波——放射
2. レーザー——放射
3. パラフィン浴——伝導
4. 超音波——エネルギー変換熱
5. ホットパック——伝導

31 第40回 理学療法 96

日本における下肢切断で誤っているのはどれか。

1. 高齢者の割合は増加している。
2. 末梢循環障害による切断は増加している。
3. 外傷による切断は減少している。
4. 上肢の切断に比べ少ない。
5. 欧米に比べ少ない。

32 第40回 理学療法 97

プラスチック製 AFO について誤っているのはどれか。

1. 破損しても加熱によって修理が可能である。
2. トリミングによって底背屈可撓性の調整が可能である。
3. 装具の上から靴が履けるので屋内外ともに使用できる。
4. 半らせん型はしゃがみこみに適している。
5. 靴べら型では足関節の角度調整が難しい。

33 第40回 理学療法 98

頸椎装具で最も強固な固定が得られるのはどれか。

1. フィラデルフィア型カラー
2. ソーミーブレース
3. ハロー・ベスト
4. 頸椎カラー
5. 支柱付き頸椎装具

34 第40回 理学療法 99

標準予防策(standard precaution)で誤っているのはどれか。

1. 湿性生体物質には、血液、痰などが含まれる。
2. すべての患者の湿性生体物質が隔離の対象となる。
3. 創傷皮膚を扱ったら、他の部位に触れる前に手洗いをする。
4. 手袋を用いれば、手洗いは省略してよい。
5. 飛沫による汚染の予防には、マスクやガウンを用いる。

35 第40回 理学療法 100

理学療法士及び作業療法士法で正しいのはどれか。

1. 理学療法士免許は都道府県知事が交付する。
2. 理学療法士以外の者は理学療法を行うことができない。
3. 理学療法士及び作業療法士法には診療報酬に関する規定がある。
4. 理学療法士は業務上知り得た人の秘密を他に漏らすと罰金に処せられる。
5. 登録事項に変更が生じたときは1年以内に理学療法士名簿の訂正を申請する。

■第40回 国家試験チェックシート (年 月 日) (/61点)

実地問題 13問×3点＋一般問題 22問×1点

番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
2	1	2	3	4	5	答
3	1	2	3	4	5	答
4	1	2	3	4	5	答
5	1	2	3	4	5	答
6	1	2	3	4	5	答
7	1	2	3	4	5	答
8	1	2	3	4	5	答
9	1	2	3	4	5	答
10	1	2	3	4	5	答
11	1	2	3	4	5	答
12	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
13	1	2	3	4	5	答
14	1	2	3	4	5	答
15	1	2	3	4	5	答
16	1	2	3	4	5	答
17	1	2	3	4	5	答
18	1	2	3	4	5	答
19	1	2	3	4	5	答
20	1	2	3	4	5	答
21	1	2	3	4	5	答
22	1	2	3	4	5	答
23	1	2	3	4	5	答
24	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
25	ア	イ	ウ	エ	オ	答
26	1	2	3	4	5	答
27	1	2	3	4	5	答
28	1	2	3	4	5	答
29	1	2	3	4	5	答
30	1	2	3	4	5	答
31	1	2	3	4	5	答
32	1	2	3	4	5	答
33	1	2	3	4	5	答
34	1	2	3	4	5	答
35	1	2	3	4	5	答

このページはコピーしてご使用ください。

■第40回 国家試験解答シート

番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	×	4,5
2	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
3	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
4	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
5	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	×	3,5
6	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
7	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
8	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
9	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	○	○	2,3
10	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
11	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
12	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	○	○	1,3

番号	解 答					
13	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
14	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
15	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
16	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
17	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
18	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
19	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
20	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
21	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
22	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
23	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
24	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5

番号	解 答					
25	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	○	○	×	×	3
26	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
27	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
28	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
29	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
30	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
31	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
32	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
33	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
34	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
35	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4

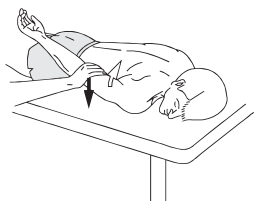
第41回 PT・OT 国家試験問題 (理学療法 基礎編)

実=実地問題 (3点), 無印=一般問題 (1点)

本書「基礎編」には36問を掲載。残り64問は姉妹編「疾患別編」(本体4,200円)の「付録」に掲載

1 第41回 理学療法1 実

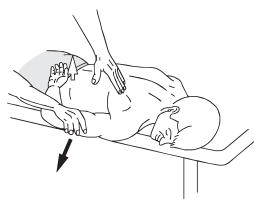
ダニエルスらの徒手筋力テスト(筋力5: Normal)で誤っているのはどれか。



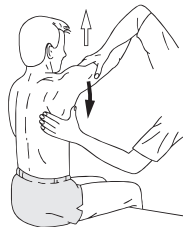
ア. 小円筋



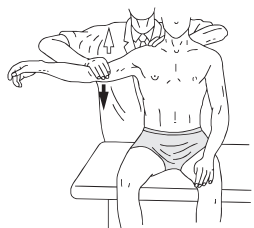
イ. 肩甲下筋



ウ. 菱形筋



エ. 前鋸筋



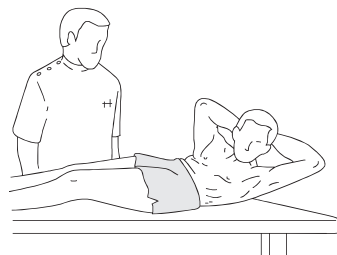
オ. 棘上筋

⇐ は被験者の力の方向
⇨ は検査者の力の方向

1. ア, イ 2. ア, オ
3. イ, ウ
4. ウ, エ 5. エ, オ

2 第41回 理学療法2 実

ダニエルスらの徒手筋力テストを図に示す。筋と筋力段階との組合せで正しいのはどれか。



1. 左外腹斜筋, 右内腹斜筋——筋力5(Normal)
2. 右外腹斜筋, 左内腹斜筋——筋力5(Normal)
3. 左外腹斜筋, 右内腹斜筋——筋力4(Good)
4. 右外腹斜筋, 左内腹斜筋——筋力4(Good)
5. 左外腹斜筋, 左内腹斜筋——筋力4(Good)

3 第41回 理学療法3 実

ダニエルスらの顔面の筋力テストで誤っているのはどれか。



1. 眼輪筋



2. 皺眉筋



3. 前頭筋



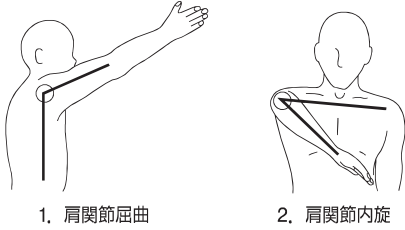
4. 口角挙筋



5. 頬筋

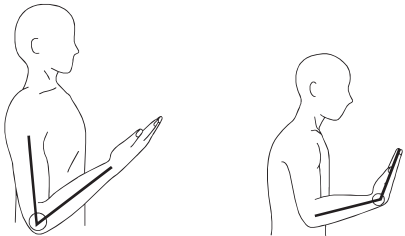
4 第41回 理学療法4 **実**

関節可動域測定法(日本整形外科学会,日本リハビリテーション医学会基準による)で正しいのはどれか。2つ選べ。



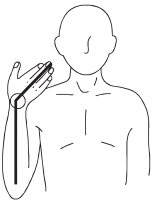
1. 肩関節屈曲

2. 肩関節内旋



3. 肘関節屈曲

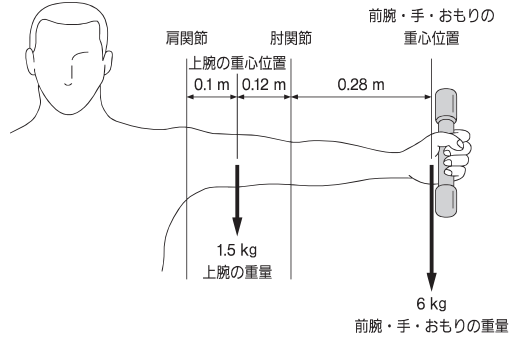
4. 手関節屈曲



5. 手関節尺屈

5 第41回 理学療法5 **実**

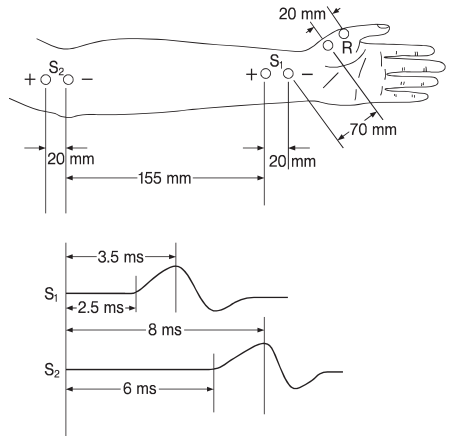
図は立位で5 kgのダンベルを持ち水平位に保持している。肩関節外転筋群が作り出している反時計回りの力のモーメントで正しいのはどれか。(1 kg重=10 Nとする)



1. 16.8 Nm
2. 18.3 Nm
3. 30.0 Nm
4. 31.5 Nm
5. 75.0 Nm

6 第41回 理学療法6 **実**

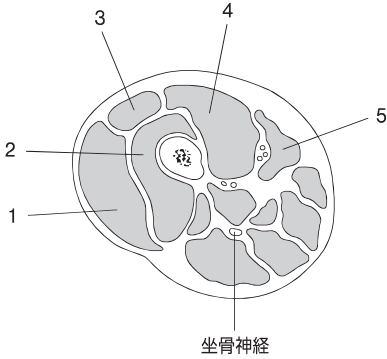
図の正中神経における運動神経伝導速度はどれか。



1. 56 m/秒
2. 50 m/秒
3. 44 m/秒
4. 39 m/秒
5. 34 m/秒

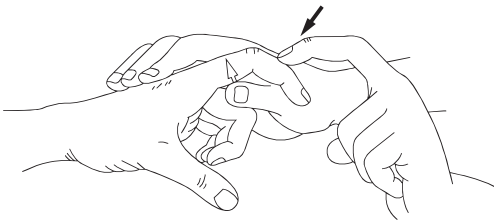
7 第41回 理学療法7 実

図は左大腿中央部の横断面図である(上から見た図)。縫工筋はどれか。



8 第41回 理学療法9 実

図はどの筋の短縮をみているか。2つ選べ。

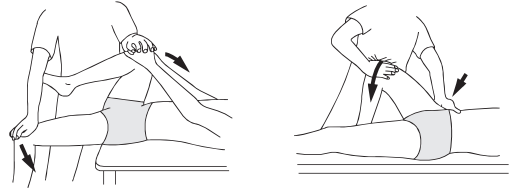


⇔ の方向に保持し
 ← の方向力を加える

1. 指伸筋
2. 示指伸筋
3. 虫様筋
4. 背側骨間筋
5. 浅指屈筋

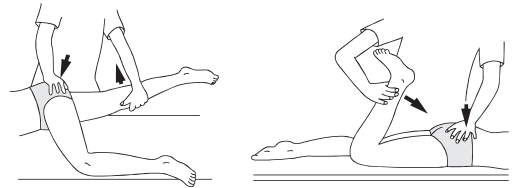
9 第41回 理学療法17 実

伸張法で誤っているのはどれか。



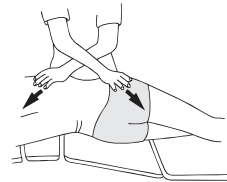
ア. 右大殿筋

イ. 右恥骨筋



ウ. 右縫工筋

エ. 右大腿直筋

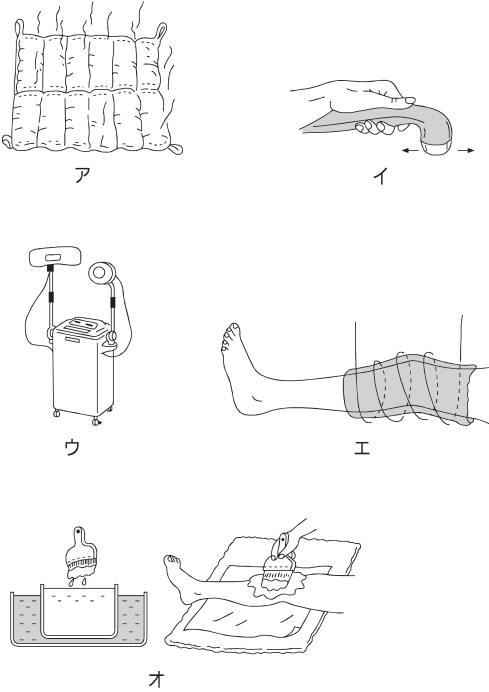


オ. 右腰方形筋

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1. ア, イ | 2. ア, オ | 3. イ, ウ |
| 4. ウ, エ | 5. エ, オ | |

10 第41回 理学療法 18 実

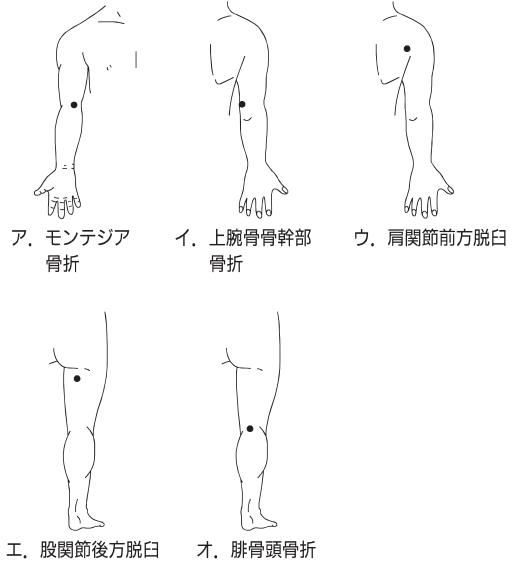
72歳の女性。右変形性膝関節症で人工膝関節置換術後6週経過。膝関節屈曲拘縮と運動痛に対する物理療法で適切でないのはどれか。



1. ア, イ
2. ア, オ
3. イ, ウ
4. ウ, エ
5. エ, オ

11 第41回 理学療法 19 実

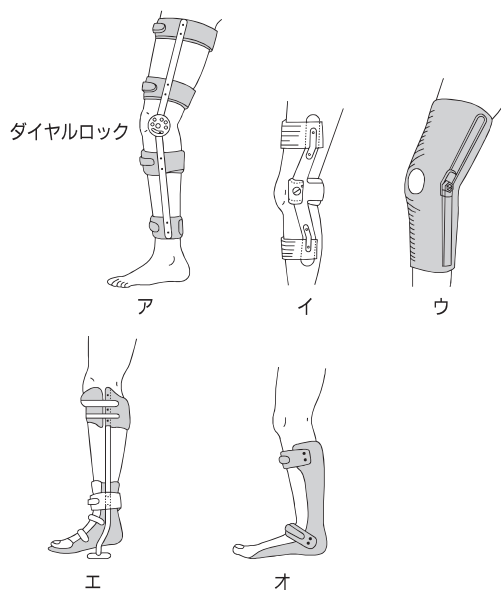
外傷で頻度の高い圧迫による神経麻痺が生じた場合、低周波治療の電気刺激部位で正しいのはどれか。ただし、●は電気刺激部位を表す。



1. ア, イ
2. ア, オ
3. イ, ウ
4. ウ, エ
5. エ, オ

12 第41回 理学療法 30 実

反張膝に用いる装具で適切でないのはどれか。



1. ア, イ 2. ア, オ 3. イ, ウ
4. ウ, エ 5. エ, オ

13 第41回 理学療法 41

ダニエルスらの徒手筋力テストにおいて段階2(Poor)の筋と測定肢位との組合せで正しいのはどれか。

1. ヒラメ筋——座位
2. 腸腰筋——座位
3. 中殿筋——側臥位
4. 棘下筋——側臥位
5. 肩甲下筋——腹臥位

14 第41回 理学療法 42

ダニエルスらの徒手筋力テストにおける代償動作とそれを起こす筋との組合せで誤っているのはどれか。

1. 肩関節屈曲——上腕二頭筋
2. 肘関節屈曲——方形回内筋
3. 前腕回内——橈側手根屈筋
4. 股関節屈曲——縫工筋
5. 膝関節屈曲——腓腹筋

15 第41回 理学療法 43

拘縮のある関節の可動域訓練で適切でないのはどれか。

1. 実施者の体重を利用する。
2. 運動の反動を利用する。
3. 随意収縮を利用する。
4. 姿勢反射を利用する。
5. 温熱を利用する。

16 第41回 理学療法 44

関節可動域測定法(日本整形外科学会,日本リハビリテーション医学会基準による)で運動方向と移動軸との組合せで誤っているのはどれか。

1. 足関節背屈——第5中足骨
2. 頸部回旋——鼻梁と後頭結節を結ぶ線
3. 頸部屈曲——外耳孔と頭頂を結ぶ線
4. 前腕回外——手指を伸展して手背面
5. 股関節屈曲——大腿骨

17 第41回 理学療法 45

身体測定で誤っているのはどれか。

1. 上肢長は肩峰から橈骨茎状突起までの距離を測る。
2. 上腕周囲径は上腕の中央で測る。
3. 下肢長は上前腸骨棘から足関節内果までの距離を測る。
4. 大腿周囲径は膝蓋骨上端から10 cm 近位で測る。
5. 下腿周囲径は下腿の最も太いところで測る。

18 第41回 理学療法 46

転子果長の左右差の原因はどれか。

1. 側弯で骨盤が傾斜している。
2. 大転子が高位となっている。
3. 股関節に屈曲拘縮がある。
4. 膝関節に屈曲拘縮がある。
5. 足関節に尖足拘縮がある。

19 第41回 理学療法 47

筋力低下を示す徴候で誤っているのはどれか。

1. フローマン徴候
2. ラセーグ徴候
3. トレンデレンブルグ徴候
4. ビーバー徴候
5. ガワーズ徴候

20 第41回 理学療法 50

ADL 評価で正しいのはどれか。

1. Barthel index で自立の得点は7点である。
2. Barthel index は食事の支度の項目を含む。
3. FIM はできる ADL を評価する。
4. FIM では時間をかけても一人でできれば完全自立である。
5. Wee-FIM は小児の ADL を評価する。

21 第41回 理学療法 51

FIM の評価項目で誤っているのはどれか。

1. 社会的交流
2. 整容
3. 排尿管理
4. トイレ動作
5. 見当識

22 第41回 理学療法 52

手段的 ADL に含まれない評価項目はどれか。

1. 公共交通機関の利用
2. 食事の支度
3. 掃除
4. 電話の対応
5. 階段の昇降

23 第41回 理学療法 53

物理療法と禁忌との組合せで誤っているのはどれか。

1. 低周波——皮膚疾患部位
2. ホットパック——阻血組織
3. 極超短波——心臓ペースメーカー
4. 超音波——体内金属
5. 間欠牽引——炎症性脊椎疾患

24 第41回 理学療法 54

パラフィンの被膜層を作って暖める方法(グローブ法)で正しいのはどれか。

1. 浴槽内の温度は56~57°Cである。
2. 被膜は2~4層を重ねる。
3. 浸ける深さは順次深くする。
4. 裂けた被膜の上に被膜層を重ねる。
5. 湿熱効果が期待できる。

25 第41回 理学療法 55

極超短波療法で誤っているのはどれか。

1. 医療用には2,450 MHz の周波数を用いる。
2. 筋層の温熱に適する。
3. 照射強度は導子と皮膚との距離に反比例する。
4. 照射前に磁気カードや時計を外す。
5. 妊娠中の理学療法士が操作するのは避ける。

26 第41回 理学療法 56

水中運動療法で正しいのはどれか。

1. 剣状突起部の水深では体重の約50%が免荷される。
2. 静水圧は深さ1mにつき約1気圧増加する。
3. 運動速度が速い方が抵抗力は小さくなる。
4. 水の浮力を利用した自動介助運動が可能である。
5. 水温は40°Cが適温である。

27 第41回 理学療法 57

超音波療法で誤っているのはどれか。

- ア. 深部組織への照射は周波数3 MHz の導子を用いる。
イ. 凹凸部位への照射は水中法を用いる。
ウ. 0.5~1.0 W/cm² の強度は非温熱作用に用いる。
エ. 照射面積は有効治療面積(ERA)の2倍以内とする。
オ. ビーム不均等率(BNR)6以上の導子は1 cm/秒で移動させる。
1. ア, イ
 2. ア, オ
 3. イ, ウ
 4. ウ, エ
 5. エ, オ

28 第41回 理学療法 85

疾患と装具との組合せで正しいのはどれか。

1. 橈骨神経麻痺——パンケーキ型装具
2. 腰椎圧迫骨折——ジェット型装具
3. 頸椎脱臼骨折——ウイリアムズ型装具
4. 多発性硬化症——バナネ付長下肢装具
5. 大腿神経麻痺——PTB型装具

29 第41回 理学療法 86

靴べら式プラスチック製短下肢装具のチェックアウトで皮膚に発赤を生じやすい部位はどれか。

- ア. 立方骨
 - イ. 第5中足骨底
 - ウ. 舟状骨
 - エ. 距骨
 - オ. 楔状骨
1. ア, イ 2. ア, オ 3. イ, ウ
4. ウ, エ 5. エ, オ

30 第41回 理学療法 87

靴の補正と適応との組合せで正しいのはどれか。

- 1. 逆トーマスヒール——内反尖足
- 2. SACH ヒール——扁平足
- 3. 内側ソールウェッジ——内反膝
- 4. 外側の長い月形しん——外反扁平足
- 5. メタルザルバー——踵部の免荷

31 第41回 理学療法 88

誤っている組合せはどれか。

- 1. 片麻痺の瘻性尖足——底屈制動付短下肢装具
- 2. ペルテス病——股関節外転装具
- 3. 特発性側弯症——ハローベスト
- 4. 先天性股関節脱臼——リーメンビューゲル装具
- 5. 膝前十字靭帯損傷——デローテーション装具

32 第41回 理学療法 89

PTB ソケットで誤っているのはどれか。

- ア. 前壁の高さは膝蓋骨下縁とする。
 - イ. 後壁の内外膝屈筋チャンネルの高さをそろえる。
 - ウ. 初期内転角を付ける。
 - エ. 体重支持は主に膝蓋腱部である。
 - オ. 懸垂のためカフベルトが必要である。
1. ア, イ 2. ア, オ 3. イ, ウ
4. ウ, エ 5. エ, オ

33 第41回 理学療法 90

サイム切断で誤っているのはどれか。

- 1. 屋内での断端荷重が可能である。
- 2. 正常に近い歩行能力を持つ。
- 3. ソケットの懸垂が容易である。
- 4. 有窓式ソケットが多い。
- 5. 外観が良好である。

34 第41回 理学療法 91

義肢装具の素材とその特徴との組合せで誤っているのはどれか。

- ア. カーボン繊維——引っ張り強度に優れるが高価である。
 - イ. シリコン——弾力性に優れるが皮膚への刺激が強い。
 - ウ. ポリプロピレン——軽量で加熱によって硬化する。
 - エ. チタン——堅固で腐食しにくい。
 - オ. アルミニウム——軽量であるが腐食しやすい。
1. ア, イ 2. ア, オ 3. イ, ウ
4. ウ, エ 5. エ, オ

35 第41回 理学療法 94

糖質が燃焼したときの化学式は $C_6H_{12}O_6 + 6O_2 \rightarrow 6H_2O + 6CO_2$ で表される。呼吸商の値はどれか。

- 1. 0.36
- 2. 0.48
- 3. 0.72
- 4. 1.00
- 5. 1.25

36 第41回 理学療法 100

理学療法士及び作業療法士法で正しいのはどれか。

- 1. 理学療法士養成施設の修業年限を1年以上と規定している。
- 2. 理学療法士の理学療法業務独占を規定している。
- 3. 理学療法士の退職後の守秘義務を規定している。
- 4. 理学療法士が1日で治療できる患者数を規定している。
- 5. 理学療法士免許は都道府県知事から交付される。

■第41回 国家試験チェックシート (年 月 日) (/60点)

実地問題 12問×3点＋一般問題 24問×1点

番号	解 答					
	ア	イ	ウ	エ	オ	答
1						
2	1	2	3	4	5	答
3	1	2	3	4	5	答
4	1	2	3	4	5	答
5	1	2	3	4	5	答
6	1	2	3	4	5	答
7	1	2	3	4	5	答
8	1	2	3	4	5	答
9	ア	イ	ウ	エ	オ	答
10	ア	イ	ウ	エ	オ	答
11	ア	イ	ウ	エ	オ	答
12	ア	イ	ウ	エ	オ	答

番号	解 答					
	1	2	3	4	5	答
13						
14	1	2	3	4	5	答
15	1	2	3	4	5	答
16	1	2	3	4	5	答
17	1	2	3	4	5	答
18	1	2	3	4	5	答
19	1	2	3	4	5	答
20	1	2	3	4	5	答
21	1	2	3	4	5	答
22	1	2	3	4	5	答
23	1	2	3	4	5	答
24	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
	1	2	3	4	5	答
25						
26	1	2	3	4	5	答
27	ア	イ	ウ	エ	オ	答
28	1	2	3	4	5	答
29	ア	イ	ウ	エ	オ	答
30	1	2	3	4	5	答
31	1	2	3	4	5	答
32	ア	イ	ウ	エ	オ	答
33	1	2	3	4	5	答
34	ア	イ	ウ	エ	オ	答
35	1	2	3	4	5	答
36	1	2	3	4	5	答

■第41回 国家試験解答シート

番号	解 答					
1	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	×	○	○	○	1
2	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
3	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
4	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	×	×	1,3
5	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
6	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
7	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
8	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	○	×	3,4
9	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	×	×	○	○	3
10	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	○	×	×	○	4
11	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	×	○	○	×	4
12	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	○	×	×	○	4

番号	解 答					
13	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
14	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
15	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
16	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
17	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
18	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
19	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
20	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
21	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
22	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5*
23	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	4
24	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5

番号	解 答					
25	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
26	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
27	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	○	○	○	×	2
28	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
29	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	○	○	×	×	3
30	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
31	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
32	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	×	○	○	○	1
33	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
34	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	×	×	○	○	3
35	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
36	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3

※手段的 ADL=○

MEMO



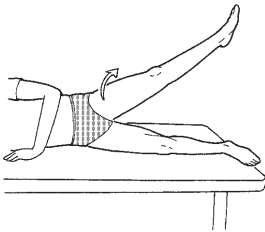
第42回 PT・OT 国家試験問題 (理学療法 基礎編)

実=実地問題 (3点), 無印=一般問題 (1点)

本書「基礎編」には33問を掲載。残り67問は姉妹編「疾患別編」(本体4,200円)の「付録」に掲載

1 第42回 理学療法1 実

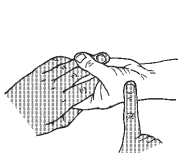
ダニエルスらの徒手筋力テストによる股関節外転、段階3 (Fair)のテストを実施したところ図のような代償運動がみられた。この代償運動への関与が疑われる筋はどれか。2つ選べ。



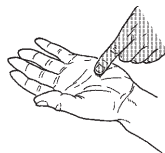
1. 小殿筋
2. 腸腰筋
3. 大腿直筋
4. 大腿筋膜腸筋
5. 半腱様筋

2 第42回 理学療法2 実

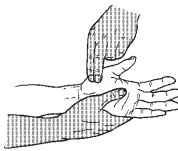
ダニエルスらの徒手筋力テストの触診部位で誤っているのはどれか。



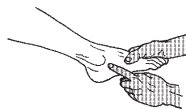
1. 母指対立筋



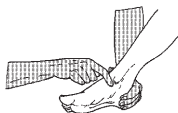
2. 小指対立筋



3. 短母指外転筋



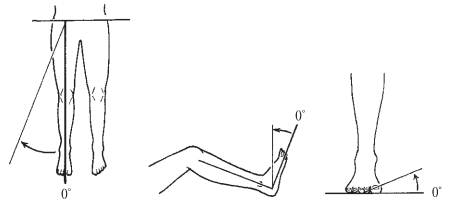
4. 長腓骨筋



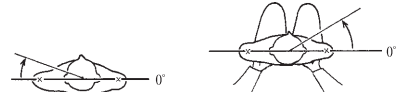
5. 前脛骨筋

3 第42回 理学療法3 実

関節可動域測定法(日本整形外科学会, 日本リハビリテーション医学会基準による)で誤っているのはどれか。



1. 股関節外転 2. 足関節背屈 3. 足部内返し



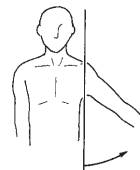
4. 頸部右回旋 5. 胸腰部左回旋

4 第42回 理学療法4 実

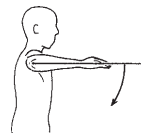
関節可動域測定法(日本整形外科学会, 日本リハビリテーション医学会基準による)の基本軸で誤っているのはどれか。



1. 肩関節屈曲



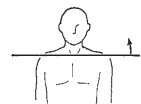
2. 肩関節外転



3. 肩関節内旋



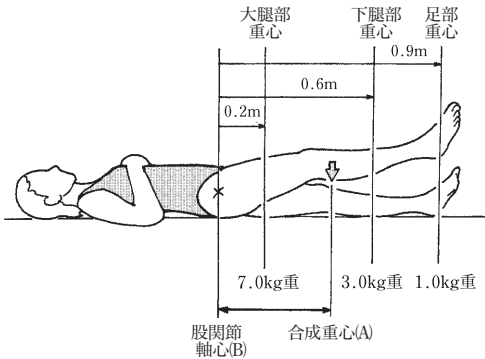
4. 肩関節水平屈曲



5. 肩甲帯挙上

5 第42回 理学療法 5 実

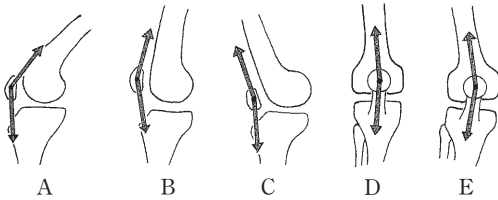
背臥位で右下肢挙上位を保持している図を示す。各部の重量、重心位置、股関節軸心からの水平距離を示している。下肢の合成重心(A)から股関節軸心(B)までの距離を求めよ。ただし、小数点以下第3位を四捨五入する。



1. 0.31 m
2. 0.34 m
3. 0.37 m
4. 0.40 m
5. 0.43 m

6 第42回 理学療法 6 実

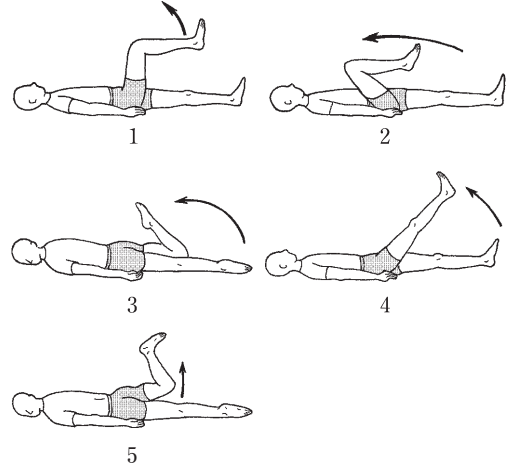
図に大腿四頭筋の力と膝蓋大腿関節の関係を示す。図を参考に、次の文で誤っているのはどれか。ただし、ベクトルの大きさは全て同じである。



1. A：大腿四頭筋の収縮力が脛骨粗面に作用する。
2. B：膝屈曲角度と膝蓋大腿関節に作用する圧力は反比例する。
3. C：反張膝では膝蓋骨が浮き上がる方向へ力が作用する。
4. D：膝蓋骨には生理的に外方への力が作用する。
5. E：Q角が大きいと膝蓋骨に外方への力が強く作用する。

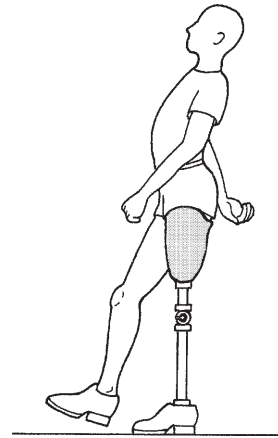
7 第42回 理学療法 7 実

ハムストリングス短縮の検査として正しいのはどれか。2つ選べ。



8 第42回 理学療法 38 実

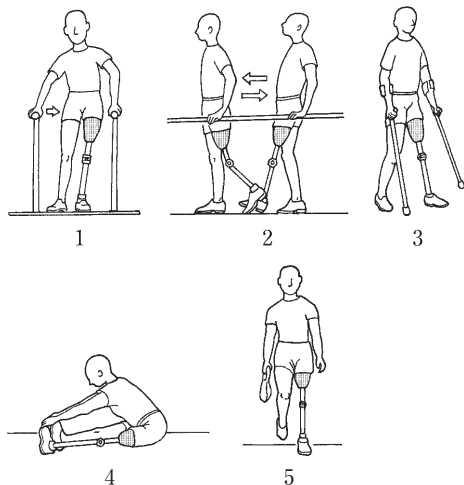
大腿義足装着時に図のような異常歩行が見られた。ソケットの適合に問題はない。この症例で、特に強化すべき筋群はどれか。2つ選べ。



1. 腹筋群
2. 背筋群
3. 患側股関節屈曲筋群
4. 患側股関節内転筋群
5. 患側股関節伸展筋群

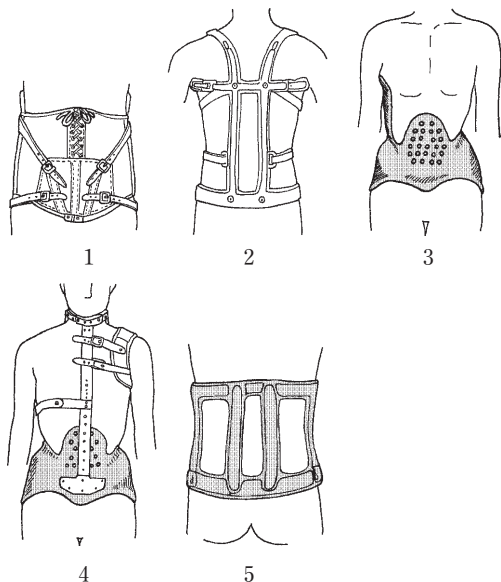
9 第42回 理学療法 39 実

38歳の男性。3か月前に労災事故で左大腿切断術を受けた。本日から骨格構造義足を用いた歩行訓練を行う。全身状態、残存筋力および断端の状態は良好である。訓練で適切なものはどれか、2つ選べ。



10 第42回 理学療法 40 実

11歳の女児。特発性側弯症。頂椎は第1腰椎でコブ角25°である。最も適切なものはどれか。



11 第42回 理学療法 41

ダニエルスらの徒手筋力テストの際に生じる代償動作とそれを起こす筋との組合せで誤っているのはどれか。

1. 肩関節伸展——上腕三頭筋
2. 肩関節屈曲——上腕二頭筋長頭
3. 肘関節屈曲——上腕筋
4. 肘関節伸展——円回内筋
5. 母指内転——長母指屈筋

12 第42回 理学療法 42

ダニエルスらの徒手筋力テストにおける膝伸展の測定で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 座位でテストを行うときには上半身を垂直に保つ。
2. 検者は足背部に抵抗を加える。
3. 筋力2のテストでは股関節内旋による代償動作に注意する。
4. 筋力3のテストの開始肢位では膝の過伸展を防止する。
5. 筋力5のテストでは患者に腕組みをさせて測定する。

13 第42回 理学療法 43

関節可動域測定法（日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準による）における伸展角度の参考可動域で正しいのはどれか、2つ選べ。

1. 頸部：50°
2. 肩関節：30°
3. 肘関節：0°
4. 股関節：15°
5. 足関節：10°

14 第42回 理学療法 44

表在感覚の髄節レベルで正しいのはどれか。

1. 母指——C4
2. 小指——C6
3. 乳頭部——T4
4. 膝蓋部——L1
5. アキレス腱部——S2

15 第42回 理学療法 45

誤っている組合せはどれか。

1. VAS——腰痛症
2. GCS——意識障害
3. SLTA——失語症
4. MMSE——認知症
5. SIAS——脊髄損傷

16 第42回 理学療法 46

国際生活機能分類 (ICF) で「活動」に含まれる項目はどれか。

1. 四肢の筋力
2. 言語表出
3. 心機能
4. 歩行
5. 嚥下

17 第42回 理学療法 47

最も高負荷となる動作はどれか。

1. 食事
2. 台所仕事
3. 歩行 (時速 5 km)
4. シャワー浴
5. 階段昇降

18 第42回 理学療法 48

手段的 ADL に含まれないのはどれか。

1. 買い物
2. 洗濯
3. 入浴
4. 服薬
5. 家計管理

19 第42回 理学療法 49

FIM の評価項目で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 各項目 0～7 点で評価する。
2. 日常実際に行っている状態を評価する。
3. 運動項目と認知項目から成り立っている。
4. 介助者が必要でなければ 5 点以上と判定する。
5. 問題解決はコミュニケーションの下位項目である。

20 第42回 理学療法 50

車椅子使用者に配慮した生活環境の整備で正しいのはどれか。

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. スロープの最大勾配 | : 12 % |
| 2. 玄関の幅員 | : 70 cm |
| 3. 車椅子と人がすれ違う通路の幅員 | : 100 cm |
| 4. エレベーターのボタンの高さ | : 120 cm |
| 5. 車椅子の回転スペース | : 150 cm |

21 第42回 理学療法 52

誤っている組合せはどれか。

1. 赤外線——浮腫の改善
2. 腰椎持続牽引——腰椎の安静保持
3. 全身浴——胃液分泌の低下
4. 低周波——痙縮の抑制
5. レーザー——疼痛の緩和

22 第42回 理学療法 53

極超短波療法で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 生殖器に照射できる。
2. 深部の加熱に適している。
3. 着衣の上からは照射できない。
4. 熱作用は水分含有量に依存する。
5. ペースメーカー使用者に照射できる。

23 第42回 理学療法 54

寒冷が生体に及ぼす影響で誤っているのはどれか。

1. 疼痛閾値の低下
2. 末梢血管の収縮
3. 末梢神経伝導速度の遅延
4. 代謝の抑制
5. 浮腫の抑制

24 第42回 理学療法 55

水中運動療法の特徴として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 静水圧の大きさは水深に比例する。
2. 浮力の作用点 (浮心) は体重心と一致する。
3. 動水圧の大きさは運動速度に反比例する。
4. 生体に影響の少ない水温を不感温度という。
5. 頸部まで水中につかると静脈還流量は減少する。

25 第42回 理学療法 77

正しい組合せはどれか。2つ選べ。

1. Yergason テスト——腱板損傷
2. Phalen テスト——手根管症候群
3. Froment 徴候——正中神経麻痺
4. Ober テスト——腸腰筋短縮
5. Lachman テスト——前十字靭帯損傷

26 第42回 理学療法 88

下肢切断の原因として最も多いのはどれか。

1. バージャー病
2. 糖尿病性壊疽
3. 骨腫瘍
4. 骨髄炎
5. 外傷

27 第42回 理学療法 89

大腿義足の歩行で、内側ホイップが起こる原因はどれか。

1. 義足が短すぎる。
2. 大腿を外側に振り出す。
3. 膝継手が内旋している。
4. 断端の皮下脂肪が多くて軟らかい。
5. トウブレイクが内側に向いている。

28 第42回 理学療法 90

両側支柱付短下肢装具で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. ダブルクレンザック継手は足関節底背屈を制御する。
2. 内側足継手の位置は内果の最突出部とする。
3. 立脚期の反張膝には足継手を底屈位にする。
4. 内反足の矯正には内側ストラップを用いる。
5. 下腿半月の上端は腓骨頭より2～3 cm 下とする。

29 第42回 理学療法 91

靴型装具の適応で正しい組合せはどれか。

1. 外反扁平足——内側月形しんの延長
2. 可撓性内反尖足——トーマスヒール
3. 外反母趾——外側ヒールウエッジ
4. 踵骨棘——ロッカーバー
5. 横アーチの低下——ヒールの補高

30 第42回 理学療法 97

筋力増強で正しいのはどれか。

1. 遠心性収縮は等尺性収縮より大きな負荷をかけられる。
2. 等速性運動は徒手による筋力増強に適している。
3. 訓練による筋肥大は筋力増強に先行して現れる。
4. 等張性収縮時は等尺性収縮時より血圧が上昇しやすい。
5. 同負荷ならば上肢に比べ下肢訓練時に血圧が上昇しやすい。

31 第42回 理学療法 98

筋の他動的持続伸張で誤っているのはどれか。

1. 手指屈筋群は手関節掌屈位で行う。
2. 手関節屈筋群は前腕回外位で行う。
3. 腸腰筋は対側の股関節屈曲位で行う。
4. 大腿直筋は股関節伸展位で行う。
5. 腓腹筋は膝関節伸展位で行う。

32 第42回 理学療法 99

協調性訓練に対する原則で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 速い運動から遅い運動へ移行する。
2. 複雑な運動から単純な運動へ移行する。
3. 多方向から単一方向への運動へ移行する。
4. 広い支持面から狭い支持面へ移行する。
5. 小さい範囲の運動から大きい範囲の運動へ移行する。

33 第42回 理学療法 100

理学療法士及び作業療法士法に欠格事由として記載されていないのはどれか。

1. 業務に関する不正行為を行った者
2. 罰金以上の刑に処せられた者
3. 麻薬、大麻、あへんの中毒者
4. 業務を適正に行えない者
5. 免許証を紛失した者

■第42回 国家試験チェックシート (年 月 日) (/53点)

実地問題 10問×3点＋一般問題 23問×1点

番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
2	1	2	3	4	5	答
3	1	2	3	4	5	答
4	1	2	3	4	5	答
5	1	2	3	4	5	答
6	1	2	3	4	5	答
7	1	2	3	4	5	答
8	1	2	3	4	5	答
9	1	2	3	4	5	答
10	1	2	3	4	5	答
11	1	2	3	4	5	答
12	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
13	1	2	3	4	5	答
14	1	2	3	4	5	答
15	1	2	3	4	5	答
16	1	2	3	4	5	答
17	1	2	3	4	5	答
18	1	2	3	4	5	答
19	1	2	3	4	5	答
20	1	2	3	4	5	答
21	1	2	3	4	5	答
22	1	2	3	4	5	答
23	1	2	3	4	5	答
24	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
25	1	2	3	4	5	答
26	1	2	3	4	5	答
27	1	2	3	4	5	答
28	1	2	3	4	5	答
29	1	2	3	4	5	答
30	1	2	3	4	5	答
31	1	2	3	4	5	答
32	1	2	3	4	5	答
33	1	2	3	4	5	答

このページはコピーしてご使用ください。

■第42回 国家試験解答シート

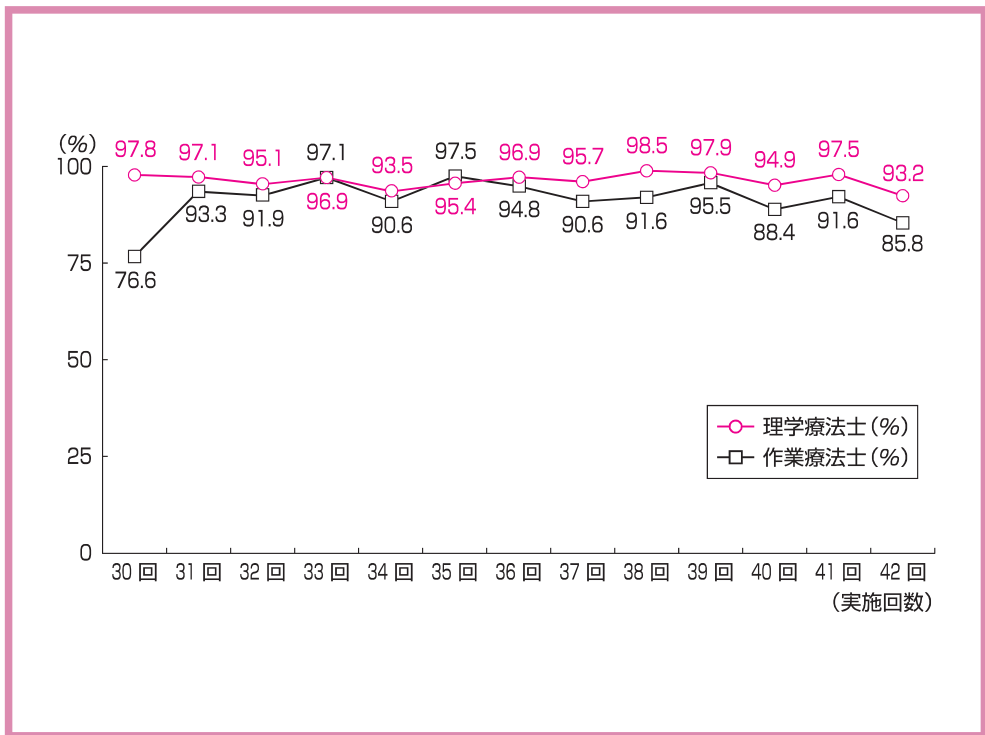
番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	×	×	2,3
2	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	×	4,5
3	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	×	○	4
4	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
5	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
6	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
7	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	○	×	1,4
8	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	○	1,5
9	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	×	×	1,2
10	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
11	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
12	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	?	○	なし

番号	解 答					
13	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	○	×	1,4
14	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
15	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
16	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
17	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
18	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
19	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	×	×	2,3
20	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
21	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
22	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	○	×	2,4
23	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
24	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	○	×	1,4

番号	解 答					
25	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	○	2,5
26	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
27	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
28	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	○	1,5
29	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
30	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
31	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
32	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	○	×	1,4
33	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5

国家試験合格率

(第30回～第42回)



第42回PT・OT国試は、PT・OTともに出題内容の難易度に関して、例年と大差はありませんでした。にもかかわらず今回の国家試験合格率は、昨年と比較してPTで4.3ポイント、OTで5.8ポイント低下しました。これは明らかに「X(2)タイプ」問題の増加が原因と思われます。今後はさらに「X(2)タイプ」問題の出題数は増加し、「Kタイプ」問題は完全に廃止されると思います。